

あかしSDGs推進計画特別委員会次第

令和2年12月16日(水) 午後2時
於 大会議室

1 開 会

2 議 事

(1) 付託された請願の審査

請願 (2件)

[新 規]

R2.11.30 第12号	次期・長期総合計画の策定に、市民参画のプロセス重視を求める請願	出 雲 晶 三 辻 本 達 也 林 丸 美	明石市太寺4丁目 市民自治あかし 松本 誠 ほか5名
------------------	---------------------------------	-----------------------------	----------------------------------

[新 規]

R2.11.30 第13号	SDGs未来都市に選ばれた明石市として持続可能なまちづくりを求める請願	丸 谷 聡 子 梅 田 宏 希 楠 本 美 紀 吉 田 秀 夫 竹 内 きよ子 家根谷 敦 子	明石市桜町 地球love明石 代表 清 一葉
------------------	-------------------------------------	--	------------------------------

(2) 報告事項 (1件)

ア (仮称) あかしSDGs推進計画 (明石市第6次長期総合計画) の策定に向けた取組について

※ 資料参照 森岡SDGs推進室課長

(3) その他

3 閉 会

以 上

(仮称)あかしSDGs推進計画(明石市第6次長期総合計画)の策定に向けた取組について

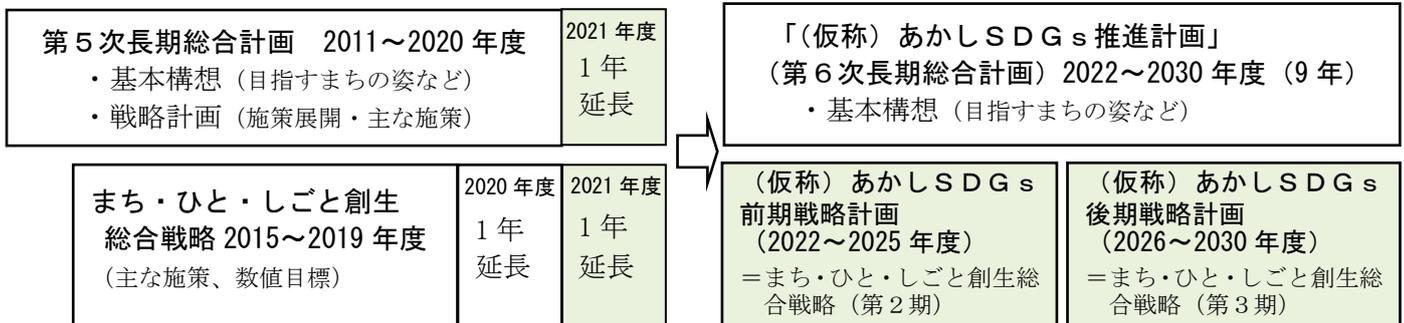
(仮称)あかしSDGs推進計画については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、策定を1年延期したところですが、来年度の策定に向けて、感染症対策を行いながら、取組を順次進めています。

については、現在の検討状況と今後の取組予定について報告します。

1 枠組み

<現計画>

<次期計画>



2 取組経過

時期	取組内容	
	市民参画等	市議会
2019年度 4月～3月	○市民意識調査(6～7月) ○タウンミーティング(6～10月) ○子育てモニターとの市長懇談会(8月) ○高齢者大学での市長懇談会(11月～2月) ◆第1回あかしSDGs推進審議会(2月) ・現計画の検証 ・SDGs推進計画の考え方 ※新型コロナウイルス感染症拡大により第2回審議会中止(3月)	○9月議会:総務常任委員会 ・取組状況、市民意識調査結果 ○12月議会:総務常任委員会 ・附属機関の設置条例改正 ○3月議会:総務常任委員会 ・検討状況 ・まち・ひと・しごと創生総合戦略の1年延長
2020年度 4月～11月	○SDGs未来都市への選定(7月) ○SDGs未来都市計画の策定(8月) ・パブリックコメント(7月) ・審議会委員への書面意見聴取(8月) ◆審議会委員への書面意見聴取 ・SDGs推進計画(骨子案)(9・11月) ・SDGs前期戦略計画(構成案)	○6月議会:あかしSDGs推進計画特別委員会 ・SDGs推進計画(計画策定1年延期、現計画1年延長) ・SDGs未来都市への取組状況 ・SDGs未来都市計画(素案)

3 「(仮称)あかしSDGs推進計画(第6次長期総合計画)」の骨子案(資料1)

<概要>

<p>計画期間</p>	<p>2022年度～2030年度(9年間)</p>
<p>2030年の あるべき姿</p>	<p style="text-align: center;">SDGs未来安心都市・明石 ～いつまでも すべてのひとに やさしいまちを みんなで～</p> <p>いつまでも 持続可能 まちの好循環により、未来につながる サステナブル(持続可能)な まちづくりに取り組みます。</p> <p>やさしいまち やさしい社会を明石から SDGsの理念である 環境・経済・社会の統合的向上を 目指し、ハード・ソフト両面から やさしいまちづくり (やさしい社会を明石から)に 取り組みます。</p> <p>すべての人に 誰一人取り残さない 年齢・性別・障害など に関わらず、すべての 人が安心を感じられる インクルーシブ (誰一人取り残さない)な まちづくりに取り組みます。</p> <p>みんなで 行政・市民・企業などが一丸となって みんな(パートナーシップ)で目標 の達成に向けて取り組みます。</p>
<p>象徴的な 数値目標</p>	<p>2030年度の目標</p> <p>①住みやすいと思う人の割合 <u>100%</u></p> <p>②目標人口 <u>30万人</u></p>
<p>まちづくり の方向性</p>	<p>三側面のまちづくりの方向性</p> <p>①環境：人にも自然にも地球にもやさしいまち</p> <p>②社会：すべての人が助け合い安心して暮らせるまち</p> <p>③経済：にぎわいと活力が持続するまち</p> <p>※3側面に統合的に取り組む(総合的・バランス)</p> <p style="text-align: center;">三側面のまちづくり</p> <p>経済 にぎわいと活力が 持続するまち</p> <p>社会 すべての人が 助け合い安心して 暮らせるまち</p> <p>環境 人にも自然にも地球にも やさしいまち</p> <p style="text-align: center;">三側面の まちづくり (総合的・バランス) ↓ SDGs未来安心 都市・明石の実現</p>

4 「(仮称)あかしSDGs前期戦略計画(明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期))」の構成案

- ・(仮称)あかしSDGs推進計画に示す2030年のあるべき姿「SDGs未来安心都市・明石」の実現に向けて、三側面のまちづくりの方向性に基づき、施策展開の柱と対応するSDGsのゴールを定めます。この施策展開の柱ごとに優先的に取り組む具体的な施策を定めます。
- ・また、まちづくりの推進状況をはかるため、「SDGs未来安心都市・明石」に関する象徴的な数値目標、環境・社会・経済の三側面のまちづくりに関する数値目標及び各展開の方向の数値目標(KPI)を定めます。

計画期間	2022年度～2025年度(4年間)
象徴的な数値目標	①住みやすいと思う人の割合 <u>〇〇%</u> ※今後検討 ②目標人口 <u>30万人</u>
三側面の数値目標	①環境：数値目標〇〇〇〇 ②社会：数値目標〇〇〇〇 ③経済：数値目標〇〇〇〇
5つの施策展開の柱と数値目標	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 1 豊かな自然と共存し、暮らしの質を高める 【SDGsのゴール】 </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;"> 展開の方向：1-① 〇〇〇〇 ①主な施策、②KPI </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; flex-grow: 1;"> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;"> 展開の方向：1-② 〇〇〇〇 ①主な施策、②KPI </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; flex-grow: 1;"> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 5px;"> 展開の方向：1-③ 〇〇〇〇 ①主な施策、②KPI </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; flex-grow: 1;"> </div> </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 2 笑顔あふれる共生社会をつくる 【SDGsのゴール】 </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 3 こどもの育ちをまちのみんなで支える 【SDGsのゴール】 </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 4 安全・安心を支える生活基盤を強化する 【SDGsのゴール】 </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 5 まちの魅力を高め、活力と交流を生み出す 【SDGsのゴール】 </div>	
計画の推進	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 持続可能で自立した行政運営、計画の進行管理など ①主な施策、②KPI </div>	

5 今後の取組予定

時期		取組内容	
		市民参画	市議会
2020年度	12月～3月	○（仮称）あかしSDGs推進計画意見箱（12～3月）※ ◆第2回審議会（1月30日） ・SDGs推進計画（素案） ・SDGs前期戦略計画（骨子案）	○12月議会：特別委員会 ・SDGs推進計画（骨子案） ・SDGs前期戦略計画（構成案） ○3月議会：特別委員会 ・SDGs推進計画（素案） ・SDGs前期戦略計画（骨子案）
	4月～6月	◆第3回審議会（5月） ・SDGs推進計画（素案） ・SDGs前期戦略計画（素案）	○6月議会：特別委員会 ・SDGs推進計画（素案） ・SDGs前期戦略計画（素案）
2021年度	7月～9月	◆第4回審議会（7月） ・SDGs前期戦略計画（素案） ○あかし高校会議所等との意見交換（8月～） ○市民説明会（9～10月）（5か所）	○9月議会：特別委員会 ・SDGs前期戦略計画（素案）
	10月～12月	◆第5回審議会（10月） ・SDGs推進計画及びSDGs前期戦略計画のパブリックコメント案 ○パブリックコメントの実施（11月）	○12月議会：特別委員会 ・市民説明会及びパブリックコメントの結果報告
	1月～3月	◆第6回審議会（1月） ・SDGs推進計画及びSDGs前期戦略計画の答申案 ◆審議会から市長への答申（1月） ○SDGs推進計画及びSDGs前期戦略計画の策定、公表（3月）	○3月議会：特別委員会 ・議案提案（SDGs推進計画） ・SDGs前期戦略計画（案）

※（仮称）あかしSDGs推進計画意見箱の設置

- ・SDGs推進計画（骨子案）やSDGs前期戦略計画（構成案）に関して、市民から幅広く意見をお聞きする意見箱を設置します。
- (1) 期 間 2020年12月18日（金）～2021年3月31日（水）
- (2) 場 所 等 市ホームページ
本庁舎1階、あかし総合窓口、3市民センター窓口
- (3) 意見の取扱 意見概要を取りまとめてあかしSDGs推進審議会に報告し、計画案の検討に活用します。

6 参考資料

【参考資料1】明石市第5次長期総合計画の検証について

【参考資料2】（仮称）あかしSDGs推進計画（第6次長期総合計画）の策定に向けたこれまでの取組における市民意見等について

(仮称) あかしSDGs推進計画 (明石市第6次長期総合計画) 骨子案

1 基本情報

(1) 総合計画について

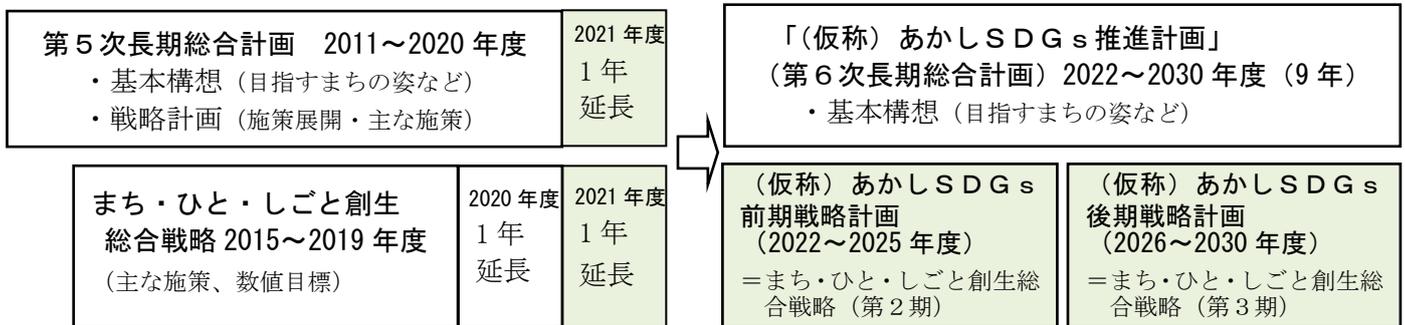
- ・総合計画とは、市の最上位に位置付けられる行政計画で、まちづくりを総合的・計画的に推進するための指針となる計画であり、明石市自治基本条例により策定が義務付けられています。

(2) 次期計画の枠組み

- ・次期計画の策定に当たっては、世界共通の持続可能な開発目標であるSDGsを基本としたまちづくりを推進することとし、目指すまちの姿やまちづくりの方向性といった、基本構想部分を定めた「(仮称)あかしSDGs推進計画」(2022～2030年度の9年間)を総合計画として策定します。
- ・総合計画と総合戦略を更に一体的に進めるため、総合計画の方向性を踏まえ、優先的に取り組む施策、各分野の主な施策を「(仮称)あかしSDGs前期戦略計画」(2022～2025年度の4年間)として策定し、「明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期)」に位置付けます。

<現計画>

<次期計画>



(3) 計画の期間

- ・次期総合計画の計画期間は、2022年度～2030年度とします。
- ・戦略計画は、総合計画の9年の計画期間を前期と後期に分けて、前期を2022年度～2025年度、後期を2026年度～2030年度とします。



(4) SDGsについて

- SDGsは、2015年9月に国連サミットにおいて全会一致で採択された2030年までを計画期間とした持続可能な開発目標であり、人類の発展と地球の持続の両立を実現するため、①人間（People）、②地球（Planet）、③繁栄（Prosperity）、④平和（Peace）、⑤パートナーシップ（Partnership）の5つのPが基盤であると言われています。
- SDGsの前身であるMDGs（国連ミレニアム開発目標）では、経済成長を通じて、主に途上国の貧困問題を解決してきましたが、開発主導の取組は、環境問題や気候温暖化の深刻化をはじめ、教育、保健、衛生などの社会面で課題を残すことになりました。
- また、社会経済のグローバル化に伴い、都市の貧困や格差、人権などにおいて、取り残される人々の問題も明らかとなり、途上国だけの問題だけでなく、先進国も含めた共通の課題となってきました。
- こうしたMDGsからの未達成の課題や新たに顕在化した課題の解決を目指し、SDGsでは、持続可能な開発の考え方として、地球の保全を前提とし、すべての国を対象に、人に焦点をあて、生活の質を向上させることとしています。
- SDGsの考え方である「生活の質を向上させること」は、住民の福祉の増進を図るという地方自治体の基本的な役割と一致します。また、SDGsで示される多様な目標の達成に向けた取組は、人口減少の克服や地域経済の活性化などの諸課題の解決に貢献し、地域における持続可能な開発、すなわち、地方創生につながります。
- SDGsでは、達成すべき具体的目標として、誰一人取り残さない社会の実現を目指し、国際社会全体で取り組む17の目標（17の目標の下に更に細分化された169のターゲット、232の指標）を掲げています。
- SDGsの17の目標には、「1 貧困をなくそう」、「3 すべての人に健康と福祉を」などの社会面の目標や、「8 働きがいも経済成長も」、「9 産業と技術革新の基礎を作ろう」などの経済面の目標、「12 つくる責任 つかう責任」、「14 海の豊かさを守ろう」などの環境面の目標といった、大きくは、社会・経済・環境の三側面の目標が掲げられています。
- SDGsの達成に向けては、社会・経済・環境をめぐる広範な課題に、統合的に取り組むとともに、すべての関係者（先進国、途上国、政府、地方自治体、民間企業、NPO・NGO、学術機関、各種団体、住民など）の連携・協力（パートナーシップ）が重要とされています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



- ・次の図は、三側面の目標と階層的な関係性を示したイメージ図です。
- ・健全な環境に支えられ、その上に社会が成り立ち、その中で経済活動が行われるといった三側面のつながりを示しています。
- ・「17 パートナーシップで目標を達成しよう」は、三側面に共通するものです。
- ・各層にまたがる課題に対し、すべての関係者が連携し、統合的に取り組むことが大切であることを示しています。

【SDGsのイメージ図】



2 計画策定の背景

(1) 日本全体の社会経済情勢の変化

<環境面>

① 環境問題の深刻化

- ・世界の人口は、2019年の77億人から2030年の85億人（10%増）へ、さらに2100年には109億人（42%増）へと増えることが予測されています。
- ・地球温暖化の影響で今後100年間には地球の平均気温が最大で約4.8℃上昇すると見込まれています。2016年に発効された「パリ協定」においては、地球温暖化防止のための世界共通の目標として、「世界全体の平均気温の上昇を、産業革命前と比べ2℃未満に、できれば1.5℃までに抑えること」が定められており、国際社会全体で積極的に取り組む必要があります。
- ・海洋プラスチックによる海洋汚染が世界規模で広がっており、2050年には廃プラスチックの量が海の生き物の数を上回るとも言われています。

② 巨大災害の切迫

- ・今後、西日本全域に及ぶ超広域震災である南海トラフ地震では、30年以内にマグニチュード8～9クラスの大規模地震が70%程度の確率で発生すると予想されており、その被害規模は東日本大震災を上回ると見込まれています。
- ・地球環境の変化により、これまで経験したことがない自然災害が今後も発生する可能性があります。

<社会面>

③ 人口減少・高齢化の進展

- ・総人口は2008年の1億2,808万4千人をピークに減少を始め、2019年7月1日現在で1億2,626万5千人であり、今後2030年には、1億1,912万5千人程度となる見込みです。
- ・生産年齢人口の減少も加速し、2040年には毎年約100万人の減少が見込まれ、老年人口は団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年頃にピークを迎えます。
- ・少子高齢化や核家族化、未婚化、高齢者のみの世帯の増加などの家族構造の多様化と家族の支え合いの機能の低下や、個人主義的なライフスタイルの変化により、従来のコミュニティは希薄化しています。

④ 地域共生社会の必要性

- ・社会構造の変化や人々の暮らしの変化を踏まえ、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、世代や分野を超えつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく社会を目指すことが求められます。

<経済面>

⑤ 経済動向・雇用情勢の変化

- ・日本の経済は、平成に入りバブル景気が崩壊して以降、低成長期に入っており、1991年から2018年の経済成長率は1.0%となっています。
- ・今後、人口減少が進む中、需要減少とともに、人手不足が深刻化することで供給制約の問題に直面し、人手不足を補うための設備投資、ICT基盤の整備などAI、IoTに対応するための設備投資の増加が期待されています。
- ・企業においては、定年延長、女性活躍推進、長時間労働の是正、在宅勤務制度の拡充、非正規社員の処遇改善などといった改革が進められることにより、女性や高齢者の労働参加の拡大や、外国人労働者の増加が見込まれます。

⑥ 情報通信技術の更なる進展

- ・AIの進展等により、2030年には製造業の就業者が160万人減少する一方で、サービス業の就業者が158万人増加すると見込まれています。

<新型コロナウイルス感染症による変化>

⑦ 三側面（環境面・社会面・経済面）への影響

- ・2019年12月に中国の武漢市で確認された新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延し、国内においても、感染拡大に伴い、国による緊急事態宣言が2020年4月に出されました。これに伴う、外出や事業活動の自粛、徹底した3密の回避等といった対策により、市民生活や経済活動に大きな影響を与えました。
- ・社会及び経済活動の停滞に伴い、一時的に温室効果ガスは減少傾向にありますが、元の生活に戻れば、再び温室効果ガスは増加します。こうした中、脱炭素や環境保全などと両立した経済復興を考える機運が高まっています。

⑧ 新たな生活様式

- ・ウィズコロナとして、非接触や外出自粛が求められるなか、経済活動を維持していく上で、テレワークやオンライン化といったデジタル化が推進され、情報通信設備の環境整備が加速するとともに、これまでの働き方や暮らし方を見直す機会となっています。
- ・ポストコロナに向けて、単に先進技術や新たな価値を取り入れるのではなく、これまで構築された生活様式の良さと融合させながら、ハード・ソフト両面において、誰もが安心して暮らすことができる新たな生活様式を構築していく必要があります。

<SDGsの推進>

- ・①～⑧をはじめとする環境・社会・経済をめぐる広範な課題等に統合的に取り組み、誰一人取り残さないインクルーシブ※で、持続可能な社会を構築するため、SDGsの推進が強く求められています。
- ・すでに、政府はもとより、全国の多くの自治体や企業、各種団体でSDGsに対する取組が始まっています。

※インクルーシブ：誰もが多様性を持つことを前提として、障害の有無や年齢、性別等によって、排除や疎外されることがなく、援護し社会の構成員として包み、支え合う。

(2) 明石を取り巻く状況

① まち全体の現況

ア まちの好循環の拡大

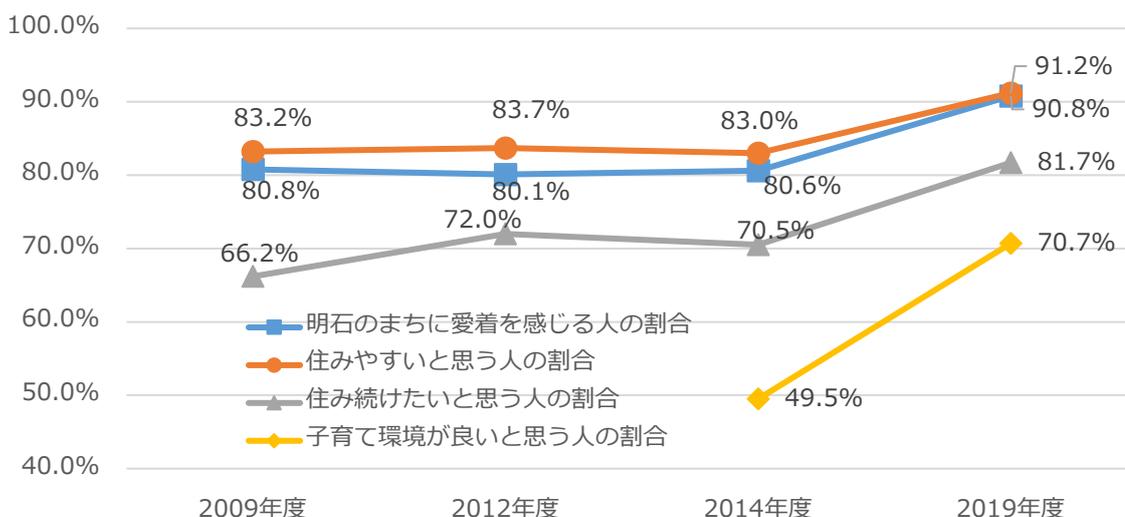
・全国的に人口減少・少子高齢化が進むなか、本市では、これまで「住みたい、住み続けたい」まちの推進に向けて、とりわけ「子どもを核としたまちづくり」、「誰にもやさしいまちづくり」を重点的に推進するとともに、「明石の魅力や特性を全国に発信」してきました。その結果、子育て世代を中心に人口が増え、まちの賑わいや税収が増加し、更なる施策展開が可能となっています。それにより、暮らしの安心とまちの魅力が一層向上するという、好循環が拡大しています。



イ まちづくりに関する市民満足度

・2019年6～7月に実施した市民意識調査では、「住みやすいと思う人」の割合が91.2%、「まちに愛着を感じる人」の割合が90.8%と非常に高い数値となっています。
特に、子どもを核としたまちづくりを進めてきた結果、「子育て環境が良いと思う人」の割合については、前回より20ポイント以上の上昇となっています。(図1)

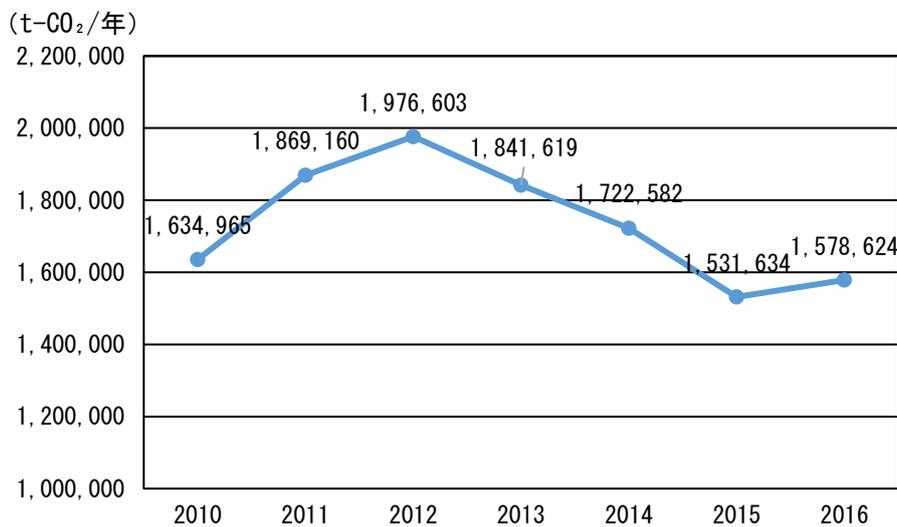
【図1】市民意識調査の結果



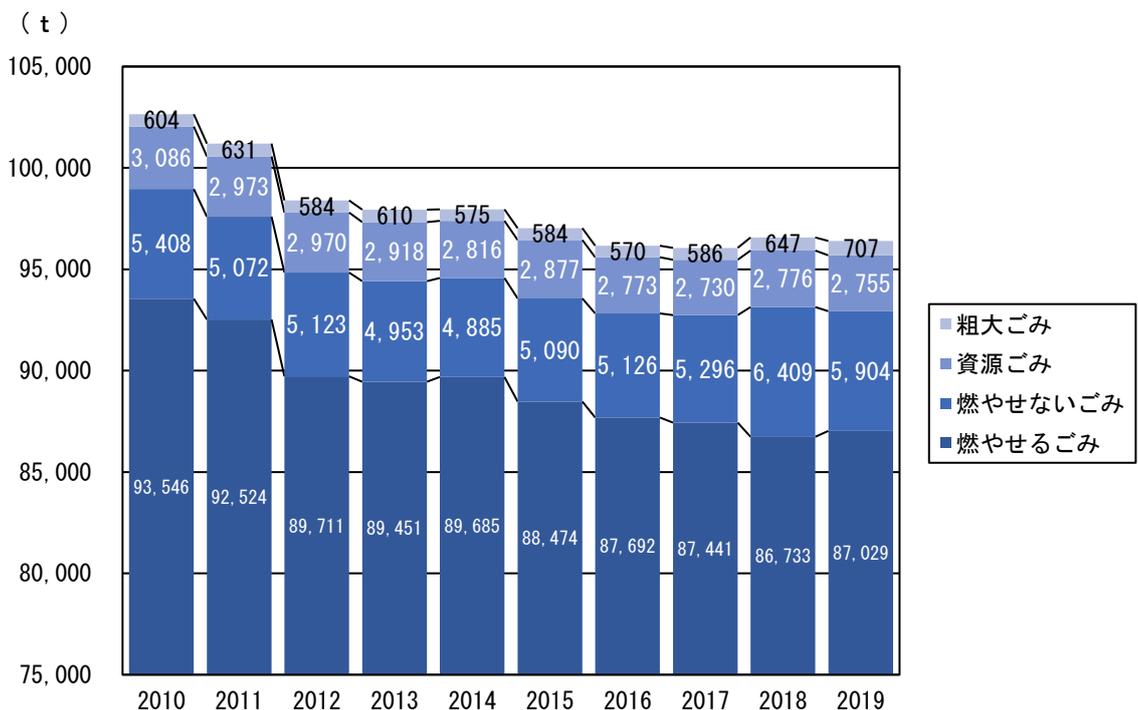
② 環境面の現状

- ・温室効果ガスの排出量を見ると、年々減少傾向にありましたが、近年では増加しています。気候変動に伴う異常気象により大規模な災害が発生していることから、本市においても、気候変動対策の推進に関する確固たる方針として「気候非常事態宣言」を2020年3月に表明しました。(図2)
- ・本市の海をはじめ、ため池や田畑など、多様な生き物を育む豊かな自然環境は、市民のまちへの愛着や、質の高い暮らしにつながっています。しかし、明石の海の現状として、水質保全の取組により、水質が改善される一方、水生生物の息遣いや生育に欠かせない栄養塩類が不足してきており、海水温上昇の影響なども伴い、マダコやイカナゴなどの漁獲量が減少しています。
- ・ごみの排出量を見ると、燃やせるごみは年々減少傾向にありますが、燃やせないごみや粗大ごみが近年増加傾向にあります。(図3)

【図2】温室効果ガス排出量



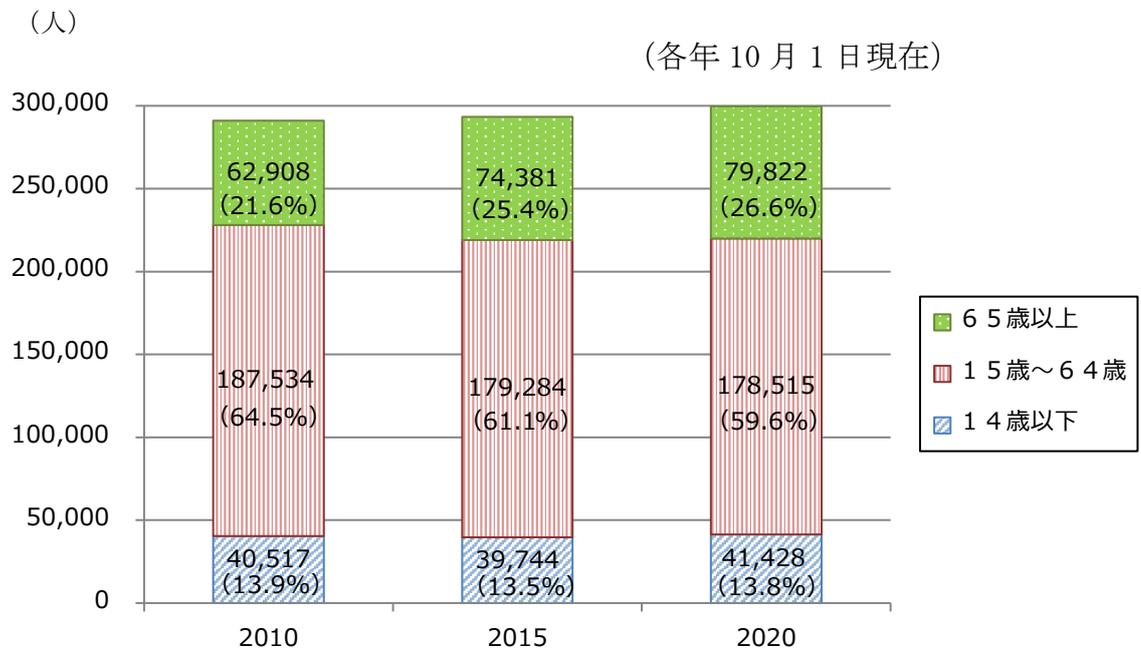
【図3】ごみの排出状況



③ 社会面の現状

- ・総人口は、2013年から8年連続で増加しており、2020年10月1日現在で、約29万9,765人です。
- ・年齢区分別に見ると、生産年齢人口（15～64歳）の人数・割合が低減するとともに、老年人口（65歳以上）が逡増しており、全国的な傾向と比べると緩やかではありますが、高齢化が進んでいます。（図4）
- ・一方で、年少人口（14歳以下）の人数・割合は、2015年から増加に転じています。さらに、合計特殊出生率も増加傾向にあり、2018年では1.70となっており、全国や兵庫県の平均を上回り、持続可能な人口構造の兆しが見られます。
- ・一世帯当たりの平均人数は、減少傾向にあり、核家族化や高齢者のみの世帯の増加などが見られます。（表1）

【図4】年齢3区分別推計人口



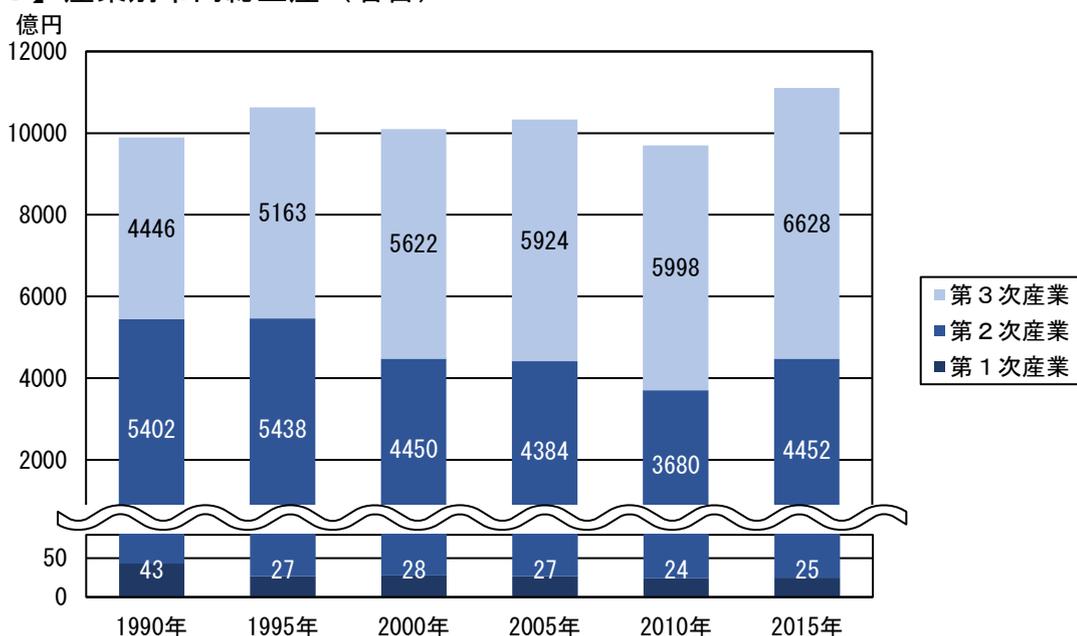
【表1】一世帯当たりの平均人数

	2010年 (10/1)	2015年 (10/1)	2020年 (10/1)
人口	290,959	293,409	299,765
世帯数	116,948	121,890	129,853
平均人数	2.49	2.41	2.31

④ 経済面の現状

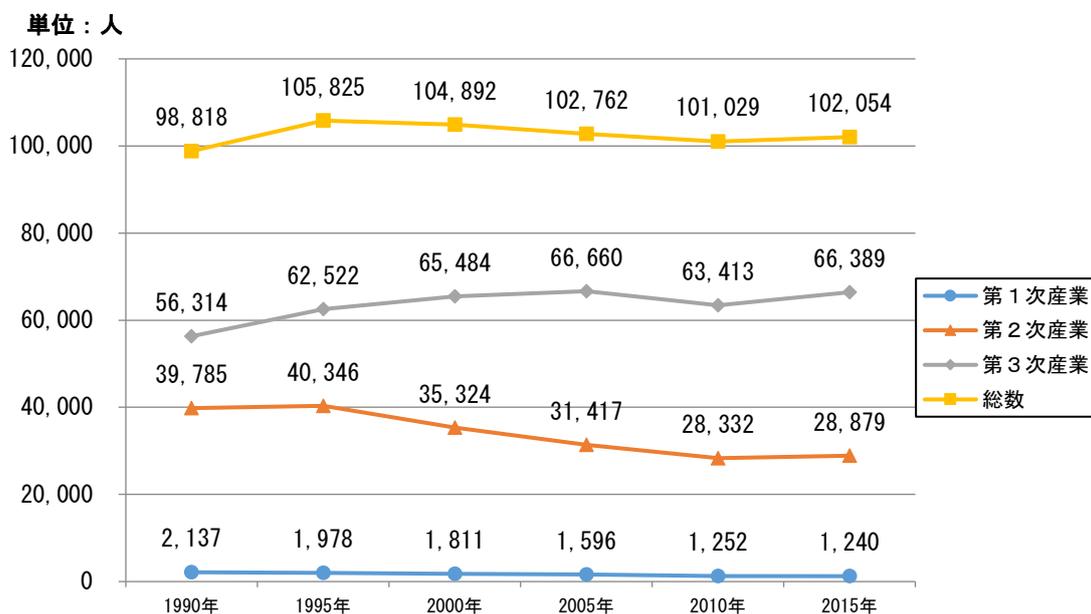
- ・市内総生産を見ると、1995年以降に減少傾向にありましたが、2015年では、大きく増加に転じています。産業別では、第3次産業が6割を占め、大規模製造業の工場が立地していることから、第2次産業が約4割弱を占めています。また、第1次産業は全体に占める割合は少ないものの、タイ、マダコやイカナゴなど全国に知られる水産物の産地です。第1次産業は年々減少傾向にあり、第3次産業は年々増加傾向にあります。第2次産業は減少傾向にありましたが、近年では、増加しています。(図5)
- ・市内就業者数を見ると、市内総生産と同様に1995年以降、減少傾向にありましたが、2015年では第3次産業の増加などにより、増加に転じています。(図6)

【図5】産業別市内総生産（名目）



出典：市町民経済計算（兵庫県）※1990～2000年は「H17年基準版」、2005年以降は「H23年基準版」の算出方法による

【図6】産業別就業者数（従業地）



資料：国勢調査

⑤ 新型コロナウイルス感染症の本市への影響

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、本市においても、学校の休校をはじめ、多くの集客イベントの中止や、商業施設の休業などが行われました。
- ・外出や事業活動の自粛、人との距離を確保する3密の回避等といった対策は、人とのつながりや地域の支え合いの希薄化による社会からの孤立、コミュニケーションや運動不足による体力や身体機能等の低下、市内産業を支える中小企業などの地域経済活動の停滞を招いています。
- ・とりわけ、高齢者や障害者、低所得者、ひとり親家庭、中小企業など、立場の弱いものへの影響が大きくなっています。
- ・現在、刻一刻と変化するコロナ禍の状況において、市民に最も身近な基礎自治体である地方自治体は、国の対策を待つことなく、ウィズコロナとして、迅速かつ的確に地域の状況にあった生活支援と経済支援の両立を果たす施策の実施が喫緊の課題となっています。

3 基本構想

(1) 2030年のあるべき姿（目指す10年後のまちの姿）

【考え方】

- ・本市においては、これまで「住みたい、住み続けたい」まちの実現に向けて、「こどもを核としたまちづくり」、「誰にもやさしいまちづくり」を推進してきました。これは、世界共通の目標であるSDGsの「持続可能」、「誰一人取り残さない」、「パートナーシップ」という理念と一致しています。
- ・また、こうしたまちづくりにより、多くの人々に明石が選ばれ、人口が増加することで、地域経済の活性化や市の財政にも好影響を与え、施策展開のための財源も含め、持続的な発展につながるというまちの好循環が拡大傾向にあります。
- ・今後一層、持続可能で、誰一人取り残さないまちを目指すため、ウィズコロナ・ポストコロナの社会を見据えた、SDGsを基本とする、環境・社会・経済の三側面のまちづくりに統合的に取り組むことにより、暮らしの質と安心、まちの魅力を高め、まちの好循環の維持・拡大を図り、持続的な発展につなげていきます。
- ・そのため、2030年のあるべき姿として、「SDGs 未来安心都市・明石 ～いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで～」を掲げ、将来にわたり誰もが安心して住みたい、住み続けたいと思うまちの実現を目指すこととします。
- ・また、まちづくりの推進状況をはかる2030年度の象徴的な目標として、明石のまちが住みやすいと思う人の割合について、100%を目指します。

2030年のあるべき姿（目指す10年後のまちの姿）

SDGs 未来安心都市・明石

～いつまでも すべてのひとに やさしいまちを みんなで～



2030年度の目標

住みやすいと思う人の割合：100%

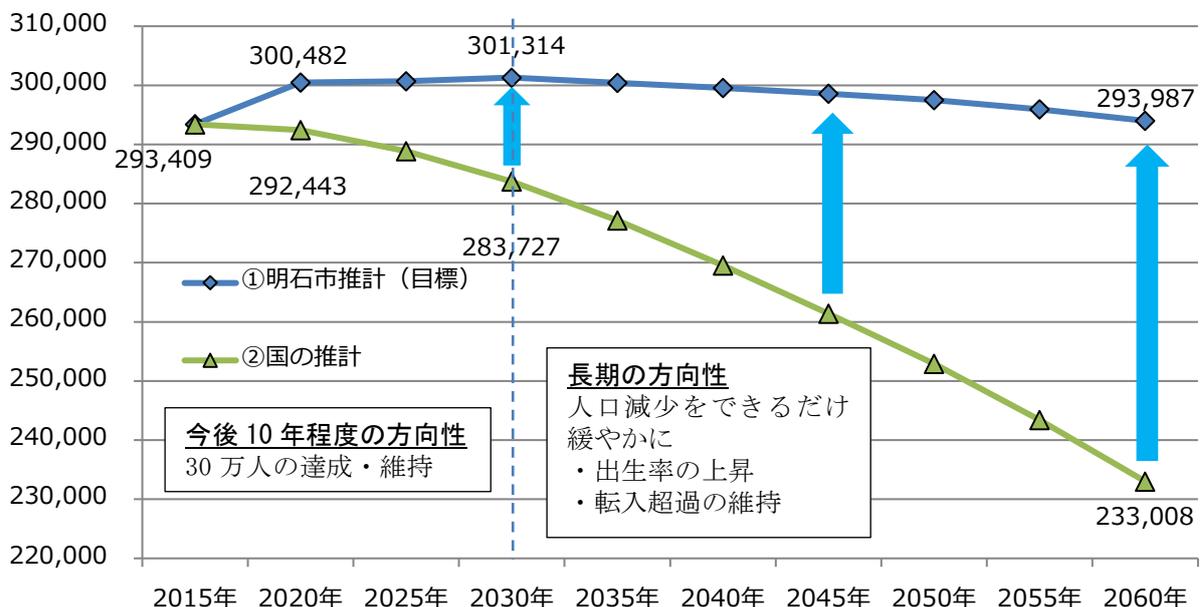
(2) 目標人口

- ・国立社会保障人口問題研究所による推計では、本市の人口は2030年に約28万4千人になるとされています。これは、2015年度の国勢調査結果に基づくものであり、近年の人口増や出生率の高まりは十分に反映されていませんが、高齢化の更なる進展による大幅な自然動態（出生－死亡）の減少に伴い、将来的な人口減少は避けられない状況です。（図7）
- ・大幅な人口減少は、労働力の低下や地域活動の担い手の減少となり、地域経済及び社会の停滞をまねく恐れがあります。
- ・将来にわたり活力ある持続可能なまちを実現するためには、早期の対策が必要であり、今後10年程度の間には人口30万人の達成・維持を図るとともに、長期的にも人口減少のスピードをできるだけ緩やかにしつつ、人口構造の安定化を図ることが求められます。
- ・については、2030年度の目標人口を、30万人とします。（図7、図8）
- ・そのため、今後、市民視点で暮らしの質を重視した、安心して魅力あるまちづくりを推進し、若い世代の結婚や出産の希望が叶う環境を整えて出生率を高め、自然動態の減少を抑制するとともに、転入増と定住性を高めて社会動態（転入－転出）の増加を図ることが必要です。
- ・2030年に30万人を維持する上で前提となる考え方（表2、表3）

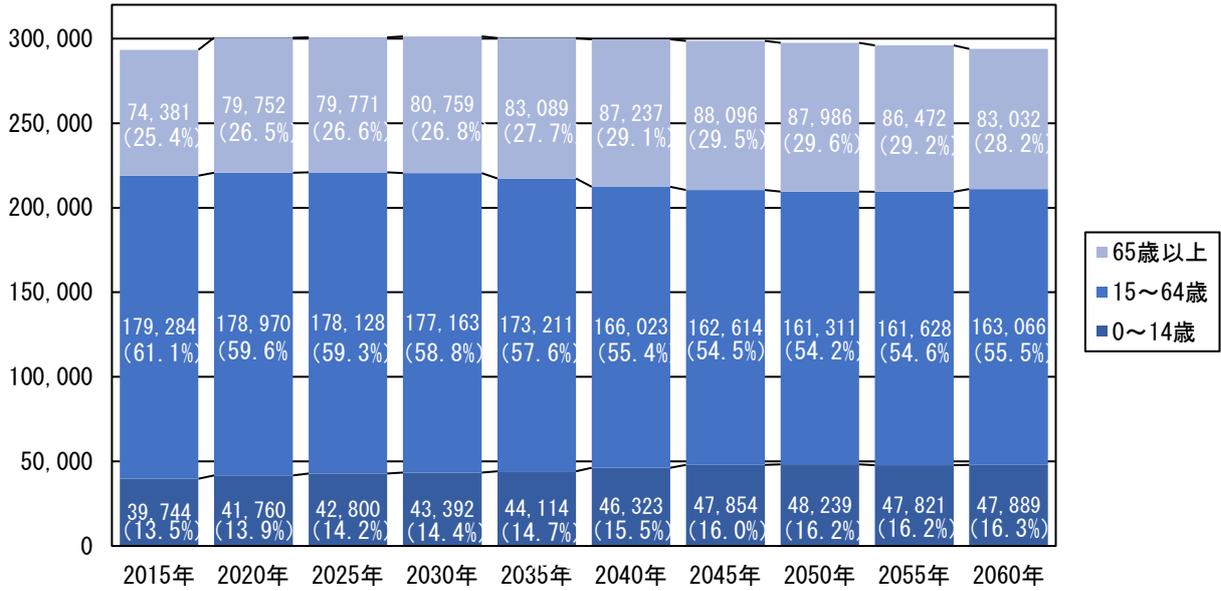
*合計特殊出生率：2030年までに1.8に上昇
 （国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と同じ）

*社会動態：2021～2030年の平均 約750人／年の転入超過
 （参考：2010～2019年 平均636人の転入超過）

【図7】将来人口推計



【図8】年齢3区分別の人口推計（①明石市推計（目標）の場合）



【表2】合計特殊出生率

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040~60年
①明石市推計（目標）	1.58	1.72	1.76	<u>1.80</u>	1.94	<u>2.07</u>
②国の推計	1.56	1.56	1.55	1.55	1.56	1.56

※2015年は実績値

・国の長期ビジョンに基づき、2030年の合計特殊出生率を「1.80」、2040年以降の目標を人口置換水準の「2.07」に設定

（※人口置換水準：人口が増減しない均衡状態となる合計特殊出生率の水準）

【表3】人口動態

○人口動態（各5年間合計）

（人）

	2016年 ↓ 2020年	2021年 ↓ 2025年	2026年 ↓ 2030年	2031年 ↓ 2035年	2036年 ↓ 2040年	2041年 ↓ 2045年	2046年 ↓ 2050年	2051年 ↓ 2055年	2056年 ↓ 2060年
①明石市推計	7,073	217	615	▲900	▲831	▲1,019	▲1,028	▲1,615	▲1,934
自然動態	▲568	▲2,866	▲3,750	▲3,686	▲3,356	▲2,829	▲2,749	▲3,342	▲3,788
社会動態	7,641	3,083	4,364	2,786	2,525	1,810	1,721	1,727	1,854
②国の推計	▲967	▲3,575	▲5,141	▲6,567	▲7,635	▲8,126	▲8,513	▲9,509	▲10,369
自然動態	▲2,200	▲4,728	▲6,085	▲7,274	▲8,142	▲7,869	▲8,158	▲9,194	▲10,168
社会動態	1,233	1,153	944	707	506	▲257	▲355	▲315	▲201

(3) まちづくりの方向性

【考え方】

- ・やさしいまちとは、安心して暮らし続けられるまちです。その実現に向けた、環境・社会・経済の三側面におけるまちづくりの方向性を示しています。

《環境面》

- ・私たちが安心して健康に生活していくためには、地域環境はもとより、広く地球環境が基盤となっています。このため、環境面では、恵み豊かな自然を将来にわたり引き継げる「人にも自然にも地球にもやさしいまち」を目指します。

《社会面》

- ・SDGsの理念である誰一人取り残さない社会を実現するため、社会面では、「すべての人が助け合い安心して暮らせるまち」を目指します。

《経済面》

- ・安心した暮らしを維持するためには、市民やまちの経済的な基盤が安定的に発展していることが重要であるため、経済面では、「にぎわいと活力が持続するまち」を目指します。

《三側面の統合的な取組》

- ・これらの三側面のまちづくりを総合的に推進するとともに、一方を進めることにより、一方が悪化するような二律背反、いわゆるトレードオフの関係ではなく、バランスよく取り組むことで、持続可能なまちづくりを進めます。

三側面のまちづくりの方向性

環境：人にも自然にも地球にもやさしいまち

- ・豊かな自然は、利便性ととも、明石の良質な生活環境を象徴するものです。また、地球環境は、人類が安全かつ豊かに生存し続けるための基盤です。将来世代が豊かな自然の恵みや地球環境を享受できるように、取り組むことは、今を生きる私たちの責任です。
- ・このため、海をはじめとする自然環境の保全と有効活用に取り組むとともに、市民生活や経済活動における環境負荷の低減など、地球温暖化防止に取り組み、災害に強く、自然と調和の取れた持続可能なまちづくりを進めることで、今だけでなく未来のこども達にも、安全で豊かな暮らしを引き継げるまちを目指します。

社会：すべての人が助け合い安心して暮らせるまち

- ・持続可能で誰一人取り残さない社会の実現に向けては、年齢や性別、障害の有無、国籍に関わらず、お互いに人格と個性を尊重し多様性を認め合い、支え合うことが必要です。また、将来のまちづくりの担い手であるこどもは、社会の宝であり、まちの未来です。
- ・このため、誰もが住み慣れた地域で、いつまでも心身ともに健康で、自分らしく社会の一員として生きがいを持って暮らし続けられる、笑顔あふれる共生社会づくりに取り組みます。さらに、安心してこどもを産み・育てられる環境や質の高い教育を受けられる環境を整えることで、すべての人が安心して暮らし続けられるまちを目指します。

経済：にぎわいと活力が持続するまち

- ・明石の海、時、歴史、文化などの地域資源や、交通の利便性の高さや温暖な気候などの地域特性は、暮らしやすいまちとしての大きな魅力です。また、活発な産業活動は、市民の経済的な基盤を確かにし、まちの元気につながります。
- ・このため、今ある地域資源や地域特性に加え、やさしいまちの新たな魅力を生み出すことで、まちへの愛着や誇りを育むとともに、新たな人を呼び込みます。さらに、生産年齢人口の減少やデジタル化の進展などを踏まえ、多様な働き方を実現できる雇用環境づくりや地域経済を循環させる取組を推進することで、まちの活力と交流を生み出し、人、資源、お金が良好に循環しながら持続的に成長するまちを目指します。

三側面のまちづくり



(4) 行政運営の基本姿勢

【考え方】

- ・ 2030年のあるべき姿の実現に向け、効率的・効果的な行政運営を行う上での基本姿勢を示します。

- ・ **市民主体のまちづくり（参画と協働）**
- ・ **持続可能で自立した行政経営**

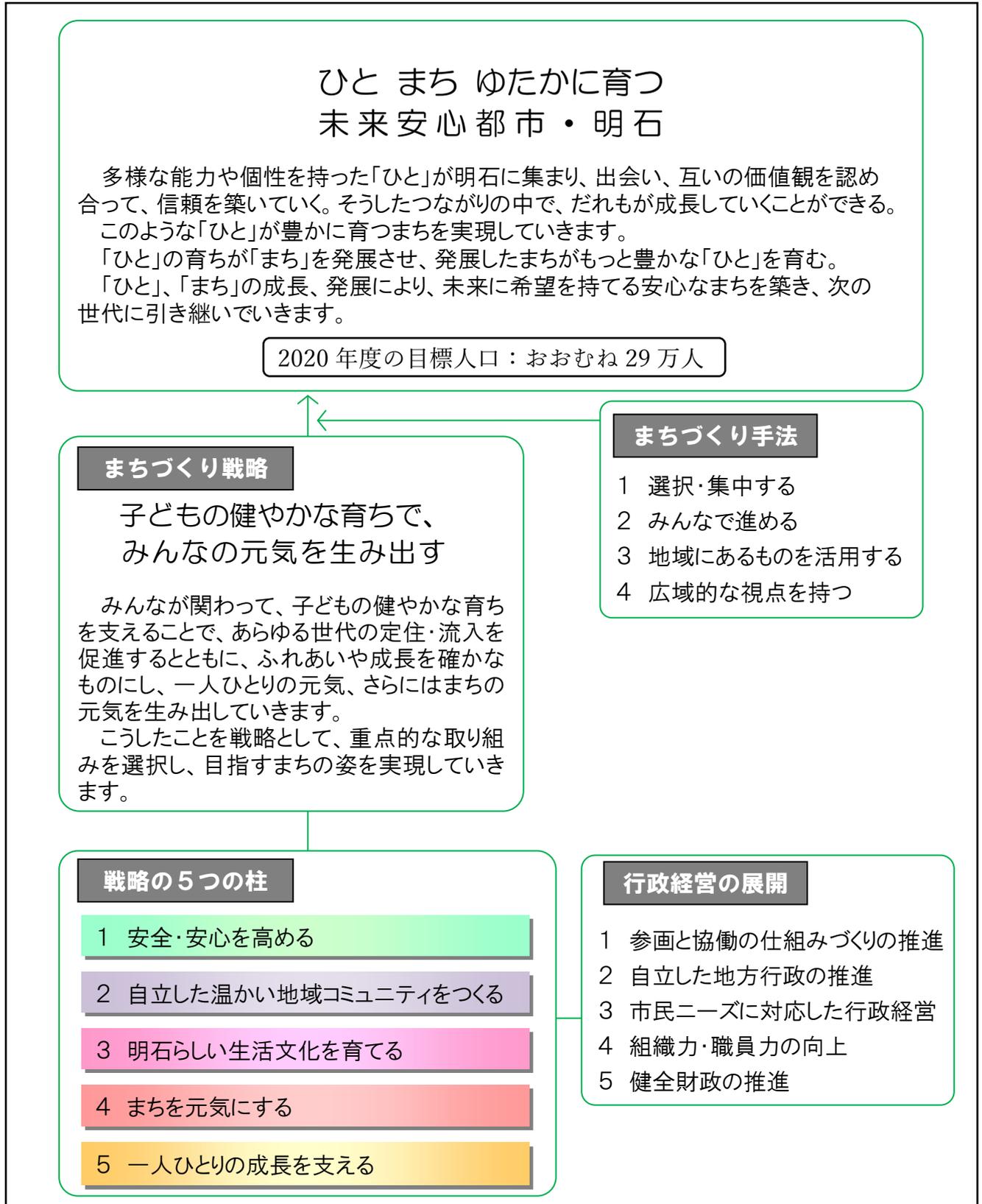
【取組方針】

- ・ 社会経済情勢の変化や多様化する市民ニーズを的確に把握し、柔軟に対応していくためには、市民視点で考え、市民一人ひとりに寄り添うことが必要です。そのため、自治基本条例に定める参画と協働の考えのもと、市民主体のまちづくりを進めます。
- ・ 市民に最も身近な基礎自治体として、人材・財源などの限られた行政資源を自らの責任と判断で、真に必要な性の高い施策に重点的に配分して実施し、効率的・効果的に成果を上げるなど、持続可能で自立した行政経営を進めます。

明石市第 5 次長期総合計画の検証について

1 計画の概要

(1) 明石市第 5 次長期総合計画（2011～2021 年度）の概要



(2) 明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015～2021年度）の概要

① 総合戦略の方向性

- ・人口増に積極的な取組を行ってきたこれまでの方向性を維持し、住民に最も身近な基礎自治体として「暮らしやすさ」を重視し、市民サービスの向上につながる様々な施策を展開し「住みたい、住み続けたい」と思われる『選ばれるまち』に向けた取組を進めていきます。

② 総合戦略の4つの基本目標

- ・明石に愛着と誇りを持ち、若者も高齢者も「住みたい、住み続けたい」と思えるよう、将来に夢や希望を持てる、誰もが安心して暮らすことができるまちづくりに向けた取組を進めていく上で、4つの基本目標を定め、人口減少と地域活力低下の克服に向けた総合的な施策展開を行います。

1	若い世代の子育て環境を整える
2	新たな人の流れをつくる
3	まちの賑いを高める
4	安全・安心な暮らしを実現する

③ 総合戦略の数値目標（トリプルスリー）

 「人口」 30万人	 「出生数」 年：3,000人	 「本の貸出冊数」 年：300万冊
--	---	---

※トリプルスリーを含め、20の数値目標を設定

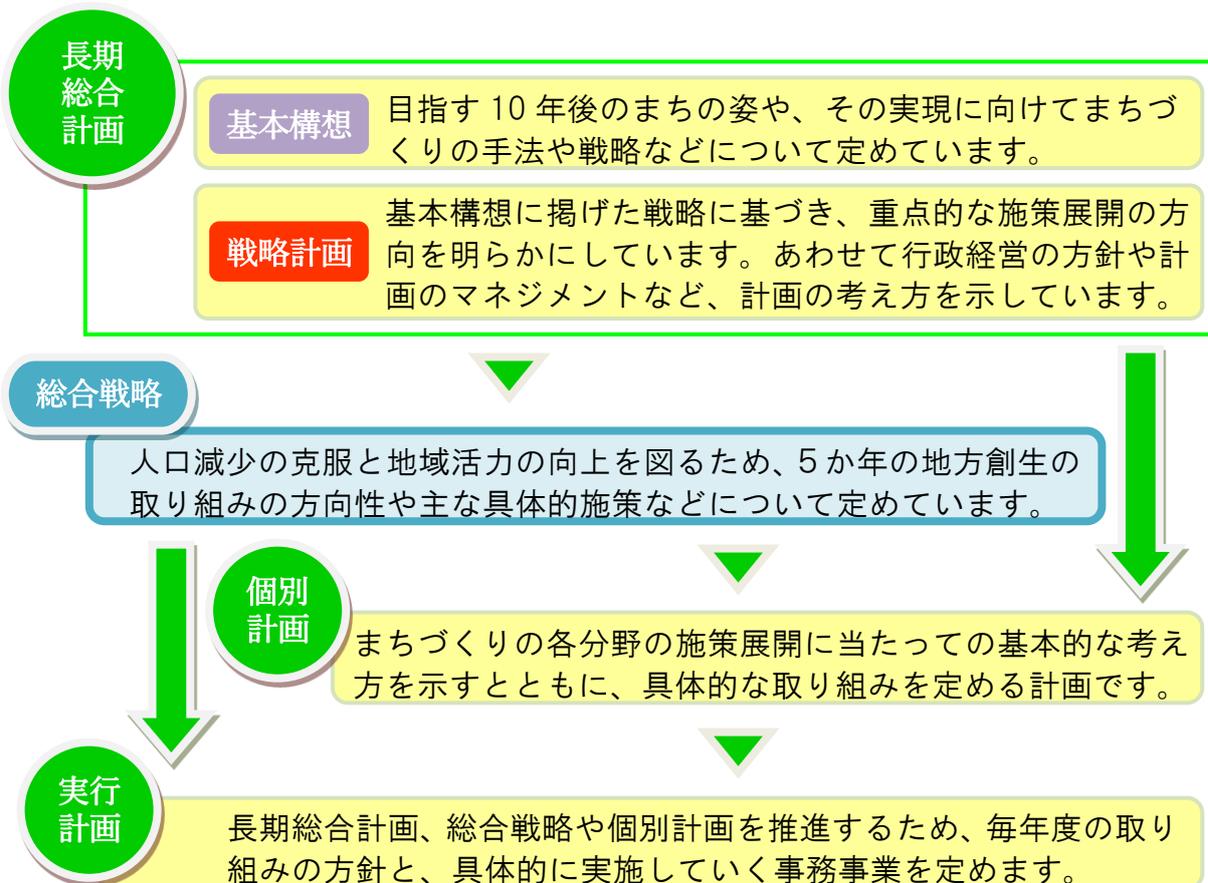
※新型コロナウイルス感染症の影響による計画期間の延長

- ・次期総合計画「(仮称)あかしSDGs推進計画」及び次期総合戦略「(仮称)あかしSDGs前期戦略計画」の策定に当たっては、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、今後の社会経済情勢の見通し等を考慮しながら、市民参画のもと、丁寧かつ十分な検討を行い、進める必要があります。
- ・ついては、次期計画の策定を1年延期し、現行の総合計画及び総合戦略の計画期間の終期を2020年度から2021年度へと1年延長しました。

(3) 長期総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略の関係

- ・第5次長期総合計画（計画期間：2011～2021年度）は、まちづくりの基本方針を示す最上位の計画であり、目指すまちの姿を、「ひと まち ゆたかに育つ 未来安心都市・明石」として掲げ、その実現に向け、「子どもの健やかな育ちで、みんなの元気を生み出す」ことをまちづくりの戦略としています。また、5つの戦略の柱を定め、重点的な施策展開の方向などを定めています。
- ・まち・ひと・しごと創生総合戦略（計画期間：2015～2021年度）は、長期総合計画の趣旨及び施策展開の方向を踏まえて策定し、人口減少の克服と地域活力の向上を図ることを目的に、4つの基本目標を設定し、その実現に向けた具体的な施策や数値目標を提示しています。
総合戦略策定以降は、同戦略に基づき、重点的な施策展開を図っています。

【概要図】



2 第5次長期総合計画の推進状況の検証

(1) 基本構想の検証

①検証方法

- ・現在の総合計画では、目指す10年後のまちの姿を、人が集まり、つながり、成長する「ひと まち ゆたかに育つ 未来安心都市・明石」と定め、まちを構成する大きな要素である人口について、2020年度の目標人口を「おおむね29万人」としています。
- ・総合計画の趣旨や重点的な施策展開の方向性を踏まえて策定したまち・ひと・しごと創生総合戦略において、人口増加、地域活力の向上を目指す本市の重点的、象徴的な目標としてトリプルスリー（「人口30万人」、「あかちゃん3,000人」、「本のまち300万冊」）を数値目標として設定しています。
- ・基本構想の実現に向けて進んでいるかどうかの検証については、目標人口に向けた人口の数値的な動きとともに、市民のまちへの思いや意識など、まちづくり全体に対する評価について分析する必要があります。
- ・また、総合計画及び総合戦略の着実な推進を図るため、市民や各種団体代表、学識経験者などで構成する「明石市長期総合計画推進会議」や、次期総合計画策定などについて調査審議する「あかしSDGs推進審議会」において、市民参画のもとで進捗状況の確認を行ってきたことからその評価も対象とします。
- ・これらを踏まえて、以下の4点から検証を行うこととします。

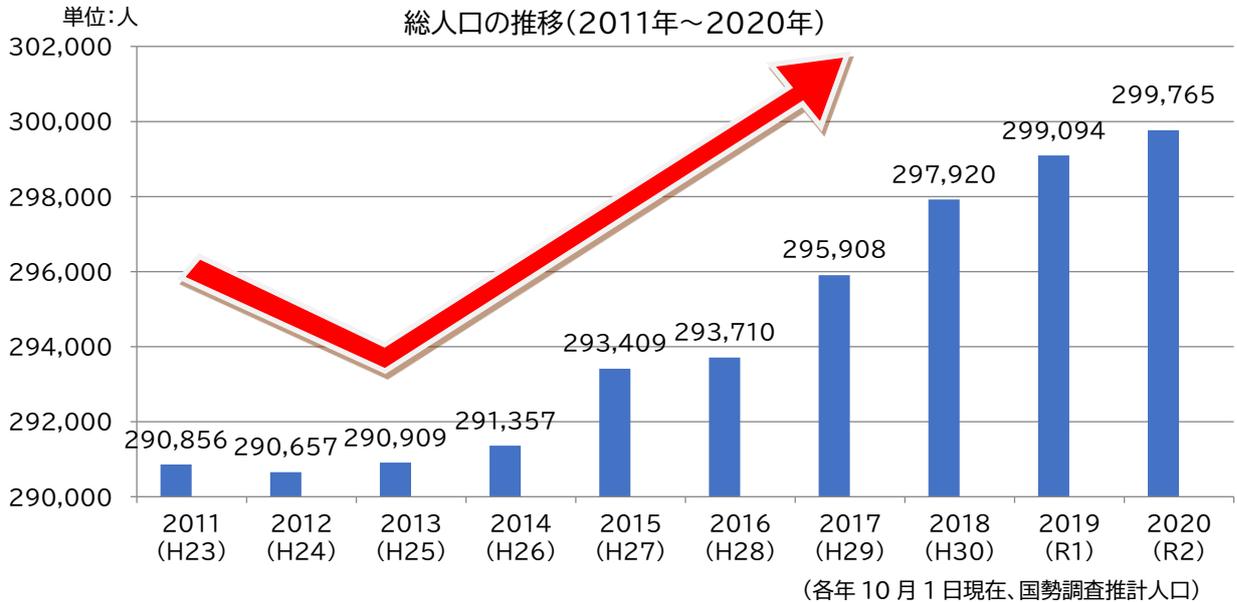
- | |
|-----------------------------------|
| ア 掲げている目標人口の実現に向けた人口動向の分析 |
| イ トリプルスリーの達成状況 |
| ウ まちへの愛着度や住みやすさ、定住意向についての市民意識の分析 |
| エ 「長期総合計画推進会議」及び「あかしSDGs推進審議会」の評価 |

②検証結果

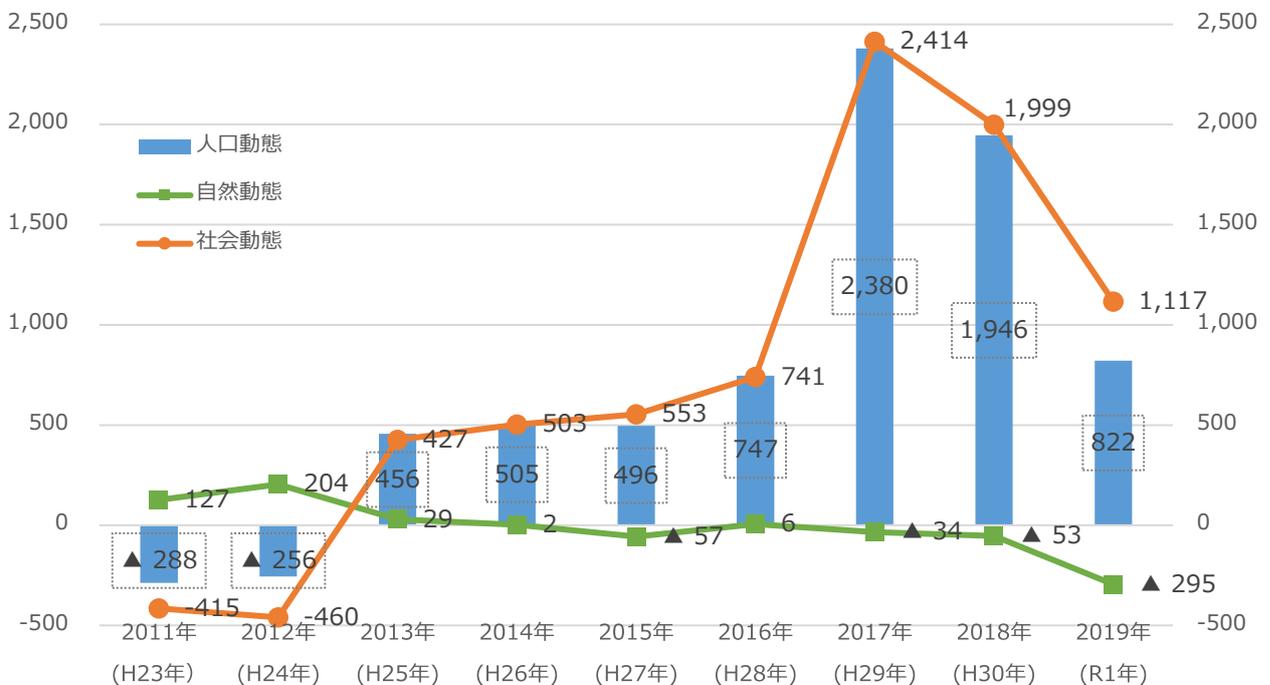
ア 掲げている目標人口の実現に向けた人口動向の分析

- 人口は2012年まで3年連続で減少していましたが、2013年から0～9歳と20～30代の子育て世代の転入超過などにより増加に転じ、8年連続で増加が続いています。

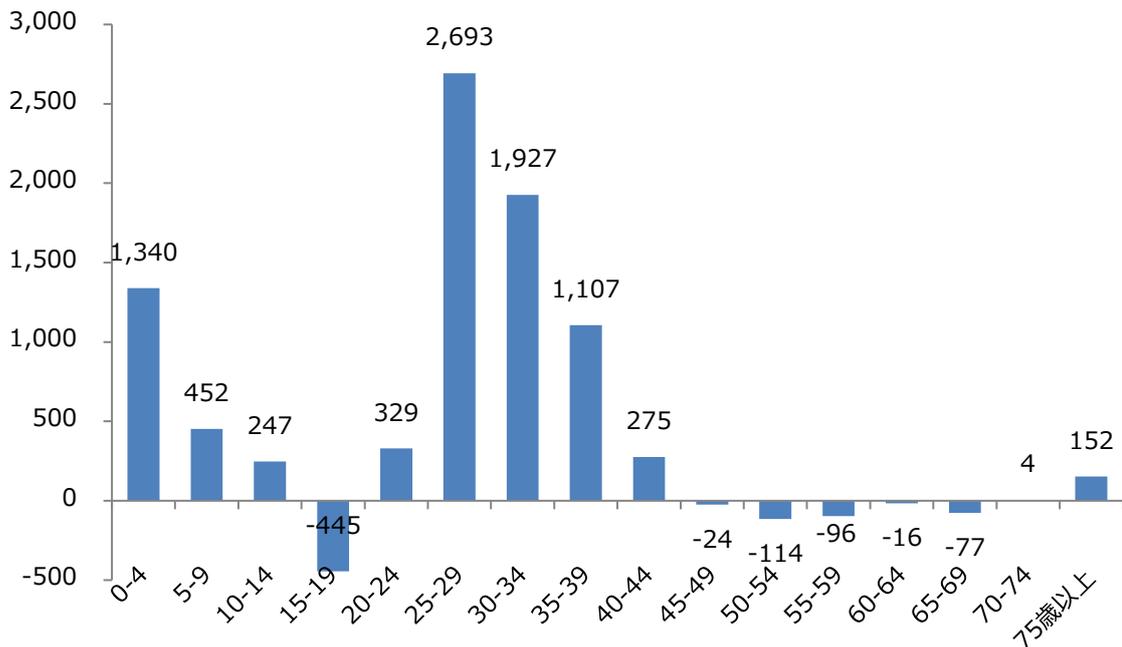
【図1】総人口



【図2】人口動態



【図3】5歳年齢別社会動態（2013年1月～2019年12月）



- ・人口が増えることで、地域経済の活性化や市税収入の増加など、市の財政にも好影響を与え、施策展開のための財源も含め、持続的な発展につながるというまちの好循環が拡大傾向にあります。



* まちの賑わい（明石駅前の歩行者・自転車通行量）

19,650人（2015年10月）→30,503人（2019年10月）6割増

* 市税収入（個人市民税、固定資産税、都市計画税）

342億円（2012年度決算）→372億円（2019年度決算）+30億円

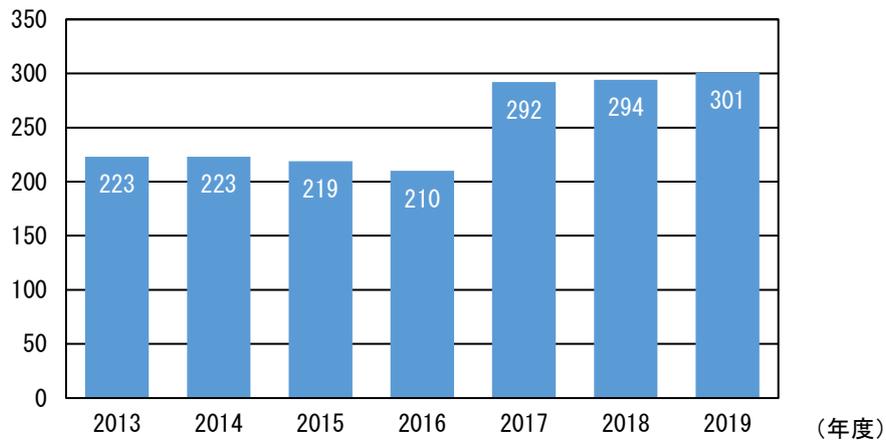
* 市の基金（財政、減債、特別会計等健全化の3基金）

70億円（2012年度決算）→110億円（2019年度決算）+40億円

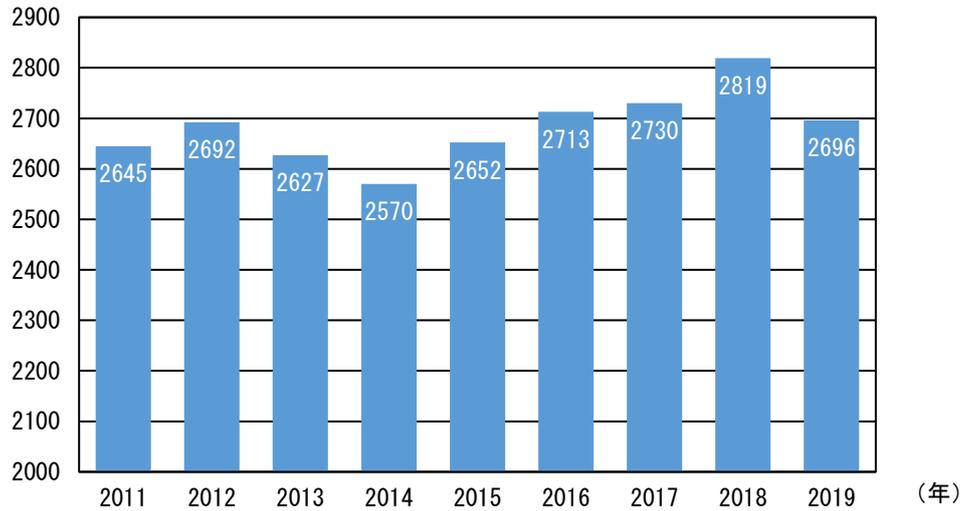
イ トリプルスリーの達成状況

- ・トリプルスリーのうち、「本のまち300万冊」については、2019年度に達成し、「人口30万人」については、現時点で目標に向けて進捗している状況です。（図1、図4）
- ・「あかちゃん3,000人」については、2014年から4年連続で増加していましたが、2019年では、2,696人となっており、3,000人の達成に向けては厳しい状況です。一方、合計特殊出生率は、年々増加しており、国や県と比較しても高い状況です。15歳～49歳までの女性の人口が減少するなか、引き続き、子どもを産み育てやすい環境を整備することで、出生数を維持していく必要があります。（図5、図6）

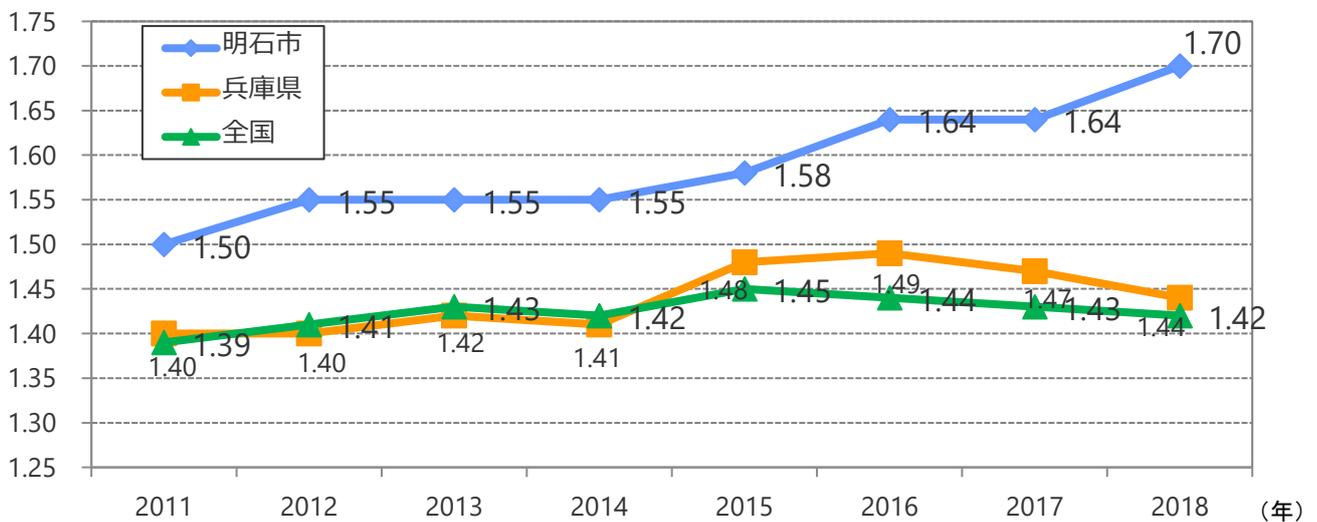
【図4】本の貸出冊数
(万冊)



【図5】出生数
(人)



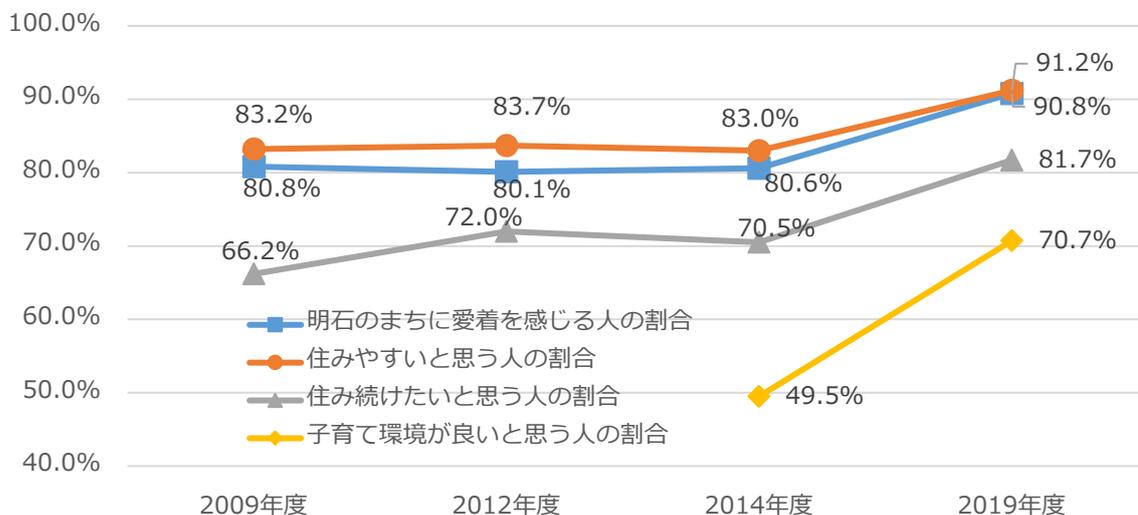
【図6】合計特殊出生率



ウ まちへの愛着度や住みやすさ、定住意向についての市民意識の分析

- 市民意識を見てみると、計画の策定段階である 2009 年以降 3 回実施した市民アンケートにおいて、「まちに愛着を感じる人」「住みやすいと思う人」の割合がいずれも約 8 割、「今後も住み続けたいと思う人」の割合が約 7 割となっており、高い水準を維持していました。
- 2019 年 6～7 月に実施したアンケートでは、「まちに愛着を感じる人」「住みやすいと思う人」の割合が 9 割以上の非常に高い数値となっています。特に、こどもを核としたまちづくりを進めてきた結果、「子育て環境が良いと思う人」の割合については、前回より 20 ポイント以上の上昇となっています。(図 7)

【図 7】市民意識調査の結果



エ 「長期総合計画推進会議」及び「あかしSDGs推進審議会」の評価

- 2019 年度に、長期総合計画推進会議及びあかしSDGs推進審議会において、人口の推移をはじめ、市民意識調査の結果、2011～2019 年度の主要事業の取組状況や数値目標の進捗状況について取りまとめ報告しました。
- その結果、長期総合計画推進会議からは、「これまでの取組状況から実感的にも計画が進捗していることが感じられ、全体的な進捗状況として目標達成がほぼ見えてきた。」との評価をいただいています。
- また、あかしSDGs推進審議会からは「障害者が安心して生活や社会参加できるようになった。まちの好循環を実感している。子ども達の声がたくさん聞こえるようになった。」との評価をいただいています。

こうしたア～エの状況から、まちづくり戦略「子どもの健やかな育ちで、みんなの元気を生み出す」に基づく重点的な施策展開により、目指すまちの姿「ひとまち豊かに育つ未来安心都市・明石」の実現に向けて、「おおむね着実に推進」していると考えられます。

(2) 戦略計画の検証

- ・戦略計画では、戦略の5つの柱（「安全・安心を高める」「自立した温かい地域コミュニティをつくる」「明石らしい生活文化を育てる」「まちを元気にする」「一人ひとりの成長を支える」）ごとに、重点的な施策展開の方向を示しています。
- ・そこで、2011年度から、戦略計画の方向に沿って、まち・ひと・しごと創生総合戦略や個別計画などに基づき実施してきた、主な新規・拡充の取組を取りまとめます。あわせて、取組の結果、市民の暮らしや意識・行動がどう変化したかを分かりやすく示すため設定していた総合戦略の数値目標の達成状況や参考指標の動きを踏まえ、戦略の柱に沿った効果的な施策展開が行われてきたかという観点から進捗状況を総括します。

【まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標の達成度】

- ◆達成又は順調に推移している項目：「◎」（達成）、「○」（順調に推移）
- ◆未達成又は達成が厳しい項目：「△」

【参考指標の傾向】

- ◆第5次長期総合計画策定時より改善している項目：「○」
- ◆第5次長期総合計画策定時より改善していない項目：「△」

戦略の柱① 安全・安心を高める

【主な新規・拡充の取組】

◆1-1 日常生活の安全性を高める

- ・駅の安全対策・バリアフリー化（JR明石・西明石駅へのホームドア設置に向けた取組など）
- ・山電連続立体交差事業（明石川～林崎松江海岸駅）、山手環状線の整備（中工区、西工区）

◆1-2 非常時への備えを万全にする

- ・住宅・公共施設の耐震化、災害ハザードマップの改訂、小学校区等での防災訓練
- ・災害時要配慮者への支援（自治会等への名簿情報の提供、福祉避難所の開設など）

◆1-3 健康な心と身体を維持する

- ・市民病院の地方独立行政法人化による医療体制の充実
- ・あかし保健所の設置（保健・医療・福祉の一体的な推進）

◆1-4 共に生きるための支え合いを充実する

- ・後見支援センターの設置、認知症高齢者への支援充実（診断費用の助成、在宅介護支援金等、認知症手帳など）
- ・手話言語等コミュニケーション条例に基づく取組、ユニバーサル歯科診療所の開設

【進捗の状況】

◆関連するまち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標
(基本目標4 安全・安心な暮らしを実現する)

	直近の数値	目標値 (2021年度)	達成度
交通事故件数	1,164件	1,400件	◎
住宅耐震化率	90.8%	91.0%	○
認知症サポーター数	12,321人	10,000人	◎

◆参考指標

【市民意識調査】

展開の方向	質問項目	2012.4月	2015.2月	2019.7月	傾向
1-1	「住んでいる地域は治安が良い」と答えた人の割合	—	59.7%	70.3%	○
1-2	「市民『減災』手帳(災害ハザードマップ)を見たことがある」と答えた人の割合	—	35.5%	64.7%	○
	「住んでいる地域は、地震や台風、豪雨など自然災害が少ない」と答えた市民の割合	—	81.8%	86.2%	○
1-3	「日常生活の中で、健康のためにより生活習慣(食事や運動など)に取り組んでいる」と答えた人の割合	65.9%	63.7%	67.6%	○
1-4	「支援が必要な高齢者や障害者などを地域で支え合う地域福祉活動が推進されている」と答えた人の割合	37.1%	32.9%	42.5%	○
	「普段の生活で何か困ったときに、相談できる人が周りにいる」と答えた人の割合	71.0%	69.1%	56.4%	△

参考指標	策定時	現在	傾向
市民病院の常勤医師数	45人 (2011.3)	 58人 (2020.3)	○

◆1-1 日常生活の安全性を高める：交通事故件数は目標値を達成しており、治安が良いと感じる人の割合が増加するなど、取組の成果が表れています。日常生活の安全は暮らしの基盤であり、定住や転入の促進の観点からも継続的な取組が求められます。

◆1-2 非常時への備えを万全にする：市民の防災意識の高まりにより、住宅等の耐震化率や災害ハザードマップを見たことがある人の割合が増加するなど、取組の成果が表れています。今後予想される南海トラフ地震や集中豪雨などに備え、災害時要配慮者への支援の充実をはじめ、ハード・ソフト両面から一層の取組が求められます。

◆ **1-3 健康な心と身体を維持する**： 日常生活の中で健康のためにより生活習慣に取り組む人の割合は微増であり、市民の健康づくりを促進する更なる取組が求められます。一方、市民病院の常勤医師数の増加など、地域医療体制の充実の面では一定の成果が表れています。

◆ **1-4 共に生きるための支え合いを充実する**： 認知症サポーター数や「支援が必要な高齢者や障害者などを地域で支え合う地域福祉活動が推進されている」と答えた人の割合が増加しており、一定の成果が表れています。一方で、「普段の生活で何か困った時に相談できる人が周りにいる」と答えた人の割合は減少しており、家族構成の変化などに対応した、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな取組が一層求められます。

戦略の柱② 自立した温かい地域コミュニティをつくる

【主な新規・拡充の取組】

◆ **2-1 主体的な地域活動、市民活動を広げる**

- ・ 全 28 小学校区へのまちづくり協議会の設置
- ・ 地域交付金制度、地域事務局構築に対する補助制度（2019 年度 14 校区・9 校区）

◆ **2-2 高齢者の地域での活躍の場を広げる**

- ・ 高年クラブ活動助成金の拡充、（一社）明石シルバー人材センターに対する支援の拡充
- ・ 高齢者のたこバス無料化、シニアいきいきパスポートの導入

◆ **2-3 認め合う開かれた地域をつくる**

- ・ 障害者配慮条例に基づく取組（事業者等に対する合理的配慮助成制度など）
- ・ 地域総合支援センターの設置（6 か所） ・（仮称）インクルーシブ条例の制定（2021 年度）
- ・ L G B T Q + / S O G I E 施策の推進

【進捗の状況】

◆ 関連するまち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標（基本目標 2 新たな人の流れをつくる、基本目標 3 まちの賑わいを高める、基本目標 4 安全・安心な暮らしを実現する）

	直近の数値	目標値 (2021 年度)	達成度
市と協働のまちづくり協定締結した小学校区数	14 校区	10 校区	◎

◆ 参考指標

【市民意識調査】

展開の方向	質問項目	H24. 4 月	H27. 2 月	R1. 7 月	傾向
2-1	「この1年程度の間、地域のまちづくり活動（自治会活動やボランティア活動など）に参加した」と答えた人の割合	27.2%	29.6%	32.0%	○

参考指標	策定時	現在	傾向
自治会加入率	79.6% (2011.4)	71.0% (2020.4)	△
シルバー人材センター 会員数	1,142人 (2011.3.31)	1,402人 (2020.3.31)	○
高年クラブ会員数	11,417人 (2011.4)	8,250人 (2020.4)	△

◆2-1 主体的な地域活動、市民活動を広げる： 地域コミュニティは本市の強みであり、市と協働のまちづくり協定を締結した小学校区数は目標を達成し、地域のまちづくり活動への参加率も増加しています。一方で、自治会加入率は全国的な傾向と同様に低下しており、地域活動などを維持・活性化する一層の取組が求められます。

◆2-2 高齢者の地域での活躍の場を広げる： シルバー人材センターの会員数は増加傾向にある一方で、高年クラブ会員数は減少傾向にあります。2019年度から高年クラブ等への活動助成を拡充したところであり、今後、高齢化の進展が見込まれる中で、意欲ある元気な高齢者が地域社会でその力を発揮し、支え手になっていただける更なる環境整備が求められます。

◆2-3 認め合う開かれた地域をつくる： こどもから高齢者まで、障害者の有無にかかわらず誰もが安心して暮らすことができるインクルーシブな社会の実現に向けた「誰にもやさしいまちづくり」の重点的な施策展開が、全体的な「住みやすい」「住み続けたい」と思う人の割合の向上に寄与しているものと考えられます。

戦略の柱③ 明石らしい生活文化を育てる

【主な新規・拡充の取組】

◆3-1 自然の恵みを将来にわたり享受できる環境をつくる

- ・ 気候非常事態宣言の表明、再生可能エネルギーの推進（クリーンセンターのメガソーラー等）、レジ袋削減の取組
- ・ 生物多様性の保全（レッドリストの作成、ミドリガメの対策など）

◆3-2 スポーツや文化芸術、歴史に親しめる環境をつくる

- ・ スポーツ環境の充実（大蔵海岸多目的広場の開設、県サッカー協会による二見人工島のサッカーグラウンドの開設、(仮称)17号池公園を整備中（2022年度完成予定）
- ・ 本のある文化のまちづくりの推進（あかし市民図書館の整備など）

◆3-3 食・時・海を暮らしに生かす

- ・ 市制施行100周年事業（B-1全国大会の開催など）
- ・ 天文科学館を起点とした「時のまち」の発信

【進捗の状況】

◆関連するまち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標（基本目標2 新たな人の流れをつくる、基本目標3 まちの賑わいを高める）

	直近の数値	目標値 (2021年度)	達成度
緑や海、公園など自然が豊かであると思う人の割合	78.6%	75.0%	◎
観光客入込数	591万人	540万人	◎

◆参考指標

【市民意識調査】

展開の方向	質問項目	2012.4月	2015.2月	2019.7月	傾向
3-1	「普段から省エネ行動に取り組んでいる」と答えた人の割合	77.0%	71.2%	67.4%	△
3-2	「この1年程度の間、スポーツや運動（1回あたり30分程度以上）を週1回以上した」と答えた人の割合	42.7%	41.7%	44.1%	○
	「この1年程度の間、文化芸術活動をした」と答えた人の割合	23.8%	19.9%	27.7%	○
3-3	「農水産物を購入する際に、明石産であることを意識している」と答えた人の割合	-	農産物 46.9%	59.3%	○
			水産物 57.0%		

参考指標	策定時	現在	傾向
家庭系燃やせるごみの1人1日あたり排出量	525g (2010年度)	483g (2019年度)	○

◆3-1 自然の恵みを将来にわたり享受できる環境をつくる： 自然が豊かであると思う人の割合が目標を達成するとともに、燃やせるごみの一人当たり排出量も減少しており、一定の取組の成果が表れています。一方で、普段から省エネ行動に取り組んでいる人の割合は低下しており、今だけでなく未来の子どもたちが豊かな自然の恵みを享受できるよう、引き続き、地球と自然にもやさしいまちづくりの推進が一層求められます。

◆3-2 スポーツや文化芸術、歴史に親しめる環境をつくる： スポーツ施設の整備のほか、教室・イベントなど活動の場・機会の提供などにより、近年、スポーツ・運動や文化芸術活動の実施率に改善が見られ、取組の一定の成果が表れています。さらに、本の貸出冊数が増加傾向にあり、新たな魅力として本のある文化のまちづくりに向けた効果的な取組が推進されていると考えられます。

◆3-3 食・時・海を暮らしに生かす： 明石の魅力を市内外に積極的に発信してきた結果、まちに愛着を感じる人の割合や観光客入込数が目標を達成するなど、取組の成果が表れています。

戦略の柱④ まちを元気にする

【主な新規・拡充の取組】

◆4-1 地域産業を元気にする

- ・卸売市場への指定管理の導入、商工会議所等と連携した中小企業支援・創業支援
- ・明石製品のブランド化及び海外への販路開拓

◆4-2 中心市街地の魅力を高める

- ・明石駅前南地区再開発事業（再開発ビル、駅周辺・国道2号デッキの整備など）
- ・明石駅前の喫煙防止、マナーアップ（区域の設定、喫煙所の設置）

◆4-3 明石のファンを増やす

- ・シティセールスの推進（住宅関連企業等と連携した移住定住促進、明石たこ大使「さかなクン」などを活用した海・魚の魅力発信、ふるさと納税の返礼品拡充など）
- ・あかし案内所の開設

【進捗の状況】

- ◆関連するまち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標（基本目標1 若い世代の子育て環境を整える、基本目標2 新たな人の流れをつくる、基本目標3 まちの賑わいを高める）

	直近の数値	目標値 (2021年度)	達成度
明石製品を使った新たな加工品、商品の開発（累計）	32種類	20種類	◎
公共交通利用者数	10,206万人	9,830万人	◎
20代・30代の転入超過数	910人	1,000人	○

◆参考指標

【市民意識調査】

展開の方向	質問項目	2012.4月	2015.2月	2019.7月	傾向
4-1	「日常の買い物が便利である」と答えた人の割合	75.1%	75.3%	80.7%	○
	「住んでいる地域に会社や工場など働く場所が多い」と答えた人の割合	—	22.1%	33.5%	○
4-3	「住んでいる地域のまちのイメージが良い」と答えた人の割合	—	51.0%	62.9%	○

参考指標	策定時	現在	傾向
市内総生産	9,738億円 (2010年度)	10,941億円 (2018年度)	○

有効求人倍率	0.37倍 (2011.3)		0.93倍 (2020.3)	○
明石市商店街連合会 会員数	676人 (2011.5)		528人 (2020.5)	△
明石駅前の歩行者・自転車通行量	19,650人 (2015.10)		30,503人 (2019.10)	○
国道2号南側商店街区域における新規出店者数(物販、飲食、サービス)	12店舗 (2015.11)		16店舗 (2019.10)	○

◆4-1 **地域産業を元気にする**： 人口増加を契機にまちの賑わいが向上しており、市内総生産や有効求人倍率などが増加しています。一方で、商店街会員数の減少や、中小企業・農漁業者などの後継者不足といった課題もあり、持続可能な地域産業に向けた取組が求められます。

◆4-2 **中心市街地の魅力を高める**： 明石駅前南地区再開発事業により、明石の玄関口にふさわしい賑わいの拠点が整備され、明石駅南の歩行者・自転車通行量や中心市街地エリアの新規出店数が大きく増加するなど、取組の成果が表れています。

◆4-3 **明石のファンを増やす**： 子育てしやすいまちとしての発信とともに、「海」「時」などのまちの魅力の発信やイベント等の開催により、20代・30代の転入超過数や観光客入込数が目標を達成しており、取組の成果が表れています。

戦略の柱⑤ 一人ひとりの成長を支える

【主な新規・拡充の取組】

◆5-1 **子育て家庭を支える**

- ・経済的負担の軽減（中学校給食の無料化、中3までのこども医療費無料化、第2子以降の保育料無料化など）、0歳児の見守り（おむつ定期便など）
- ・保育所待機児童の対策（受入枠の拡充、保育士確保策による質の向上など）
- ・明石こどもセンター（児童相談所）及び西日本こども研修センターあかしの開設

◆5-2 **質の高い教育を推進する**

- ・教育環境の整備（幼稚園給食の実施、エアコンの設置、小学1年生に30人学級の導入など）
- ・こどもの読書活動の推進（学校司書の全校配置、ビブリオバトル等の開催など）
- ・高等学校進学に向けた給付型奨学金の創設

◆5-3 **幅広い世代の意欲を育む**

- ・生涯学習、交流の場の充実（あかねが丘学園の移転、生涯学習センター・男女共同参画センターの指定管理者制度の導入など）

【進捗の状況】

◆関連するまち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標（基本目標1 若い世代の子育て環境を整える）

	直近の数値	目標値 (2021年度)	達成度
子育て環境が良いと思う人の割合	70.7%	55.0%	◎
保育所待機児童数	365人	0人	△
全国学力・学習状況調査で全国平均点を上回る科目数	80% (4/5科目)	100%	△

◆参考指標

【市民意識調査】

展開の方向	質問項目	2012.4月	2015.2月	2019.7月	傾向
5-2	「市立学校における学習指導に対して満足している」と答えた保護者の割合	52.1%	64.9%	77.6%	○
	「住んでいる地域の学校の教育環境が良い」と答えた人の割合	—	45.6%	57.4%	○
5-3	「この1年程度の間、生涯学習活動をした」と答えた人の割合	14.1%	12.4%	10.3%	△

◆5-1 子育て家庭を支える： こどもを核としたまちづくりの重点的な施策展開により、子育て環境が良いと思う人の割合が目標を達成するとともに、出生数 3,000 人の達成は難しいものの出生率が上昇傾向にあり、取組の効果が表れています。一方で、保育所待機児童の解消が喫緊の課題であり、一層の取組が求められます。

◆5-2 質の高い教育を推進する： 学習指導に満足している保護者や教育環境が良いとした人の割合は向上しており、一定の成果が表れています。一方で、全国学力・学習状況調査では8割の教科で全国平均点を上回っているものの目標達成には至っておらず、一人ひとりの特性に応じたきめ細やかな取組が一層求められます。

◆5-3 幅広い世代の意欲を育む： 生涯学習や交流の場の充実を図ってきましたが、生涯学習活動の実施率は低下しています。若者から高齢者まで幅広い世代の方々が生涯にわたって自らの能力を高め、成長する機会や場を提供するなど、一人ひとりの成長を支える取組が一層求められます。

行政経営の展開

【主な新規・拡充の取組】

1 参画と協働の仕組みづくりの推進

- ・市民参画条例、協働のまちづくり推進条例に基づく取組

2 自立した地方行政の推進

- ・中核市移行による市民サービスの向上（保健所、動物センター、こどもセンターなど）

3 市民ニーズに対応した行政経営

- ・市民ニーズの把握（市長懇談会、市長意見箱、市民相談の充実など）
- ・あかし総合窓口の開設

4 組織力・職員力の向上

- ・効率的で機能的な組織体制（局制の採用）、専門性を持つ職員の採用・活用

5 健全財政の推進

- ・財政健全化の取組（総人件費の削減、事務事業の見直し、公共施設配置適正化など）

【進捗の状況】

- ◆関連するまち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標（基本目標1 若い世代の子育て環境を整える）

	直近の数値	目標値 (2021年度)	達成度
市の総人件費の削減（中核市移行分は除く）	196億円	189億円	△

◆参考指標

【市民意識調査】

展開の方向	質問項目	2012.4月	2015.2月	2019.7月	傾向
1	「市の計画に意見を出したり、市の取り組みに参加して活動したい」と答えた人の割合	43.3%	43.1%	46.4%	○
3	「広報あかしをほぼ毎回読む」と答えた人の割合	61.9%	55.1%	58.9%	△
4	「市の窓口サービスについて、適切で気持ちのよい対応がなされていると感じる」と答えた人の割合	48.9%	48.5%	62.3%	○

参考指標	策定時	現在	傾向
正規職員数	2,386人 (2011.4)	→ 2,037人 (2020.4)	○

基金残高（財政、減債、特別会計等健全化の3基金）	70億円 (2010年度)	➡	110億円 (2019年度)	○
財政力指数	0.778 (2010年度)	➡	0.793 (2019年度)	○
経常収支比率	93.1% (2010年度)	➡	94.5% (2019年度)	△
実質公債費比率	8.5% (2010年度)	➡	3.0% (2019年度)	○

1 参画と協働の仕組みづくりの推進： 市民参画条例や協働のまちづくり推進条例に基づく取組を推進しており、引き続き、市民が市政に参画しやすい環境づくりに取り組むとともに、市民と共に協働のまちづくりを一層推進していきます。

2 自立した地方行政の推進： 中核市移行により自らの責任と権限により地域課題の解決を図れる体制が一層整ったことから、今後、市民に最も身近な基礎自治体として、市民サービスの更なる向上に取り組めます。

3 市民ニーズに対応した行政経営： 市長懇談会の実施や市民相談の充実により市民ニーズの把握に努めるとともに、SNSなど市民への情報提供ツールの充実を図っています。引き続き、効果的で分かりやすい市政情報の提供と市民の声を踏まえた行政経営に取り組めます。

4 組織力・職員力の向上： 時代状況や社会情勢に応じた組織改正を行うとともに、専門性を持った職員の採用などを進めています。引き続き、多様化する市民ニーズや行政課題に的確、迅速に対応できる業務執行体制の確立に取り組めます。

5 健全財政の推進： 総人件費は目標達成に至っていないものの、正規職員数では大幅に削減を図っており、事務事業の見直しや歳入確保の取組などにより、基金残高も増加し、100億円を超えています。引き続き、持続可能な財政構造の構築に取り組めます。

※**財政力指数：** 地方公共団体の財政力を示す指数です。指数が高いほど税収が多く、豊かな団体ということになり、1を超えると原則として地方交付税は交付されません。

※**経常収支比率：** 日常的な行政活動に必要な経費に、市税や地方交付税などの自由に使える収入がどのくらい使われているかの割合です。この数値が低いほど、自由に使える収入に余裕があることとなります。

※**実質公債費比率：** 市税や地方交付などの自由に使える収入のうち、公債費や公営企業の市債（借金）償還に対する繰出金など、実質的な市債の償還に使われたものの占める割合です。この比率が18%を超えると市債の発行に総務省の許可が必要となります。

【参考】 まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標の進捗状況

【参考】 まち・ひと・しごと創生総合戦略における数値目標の状況

- 全20項目の数値目標のうち
 ◆達成又は順調に推移している項目 : 15項目 (◎: 達成済み ○: 順調に推移)
 ◆未達成又は達成が厳しい項目 : 4項目 (△)
 ◆その他 (今後把握する項目) : 1項目 (ー)

明石のトリプルスリー (施策の基本的な方向性を分りやすく示す数値目標)

	2014年(参考値)	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2021年(目標値)	達成度
人口30万人	291,357人	293,409人	293,710人	295,908人	297,920人	299,094人	299,765人		300,000人	○
※各年10月1日現在										
あかちゃん(出生数)	2,570人	2,652人	2,713人	2,730人	2,819人	2,696人			3,000人	△
3,000人/年										
本のまち	2,218,907冊	2,187,722冊	2,102,943冊	2,924,386冊	2,938,395冊	3,005,919冊			3,000,000冊	◎
300万冊/年度										

成果目標(基本目標ごとの数値目標)

	成果指標	2014年(参考値)	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年(目標値)	達成度
基本目標1	出生数	2,570人	2,652人	2,713人	2,730人	2,819人	2,696人		3,000人	△
	若い世代の子育て環境を整える									
	子育て環境が良いと思う人の割合※1	49.4%	—	—	—	—	70.7%	—	55.0%	◎
基本目標2	公共交通利用者数	9,626万人	9,484万人	9,819万人	10,012万人	10,159万人	10,206万人		9,830万人	◎
	新たな人の流れをつくる									
	住みやすいと思う人の割合※1	83.0%	—	—	—	—	91.2%	—	88.0%	◎
基本目標3	図書館での本の貸出冊数	220万冊	218万冊	210万冊	292万冊	294万冊	301万冊		300万冊	◎
	まちの賑いを高める									
	明石のまちに愛着を感じる人の割合※1	80.6%	—	—	—	—	90.8%	—	85.0%	◎
基本目標4	交通事故件数	1,558件	1,746件	1,678件	1,492件	1,187件	1,164件		1,400件	◎
	安全・安心な暮らしを実現する									
	住み続けたいと思う人の割合※1	70.5%	—	—	—	—	81.7%	—	75.0%	◎

※1. まちづくり市民意識調査

ＫＰＩ（施策ごとの進捗状況を検証するために設定し、その施策を行うことによって生まれる効果等の数値目標）

	KPI	2014年(参考値)	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2021年(目標値)	達成度
基本目標1 若い世代の子育て環境を整える											
1安心して子育てができるまちづくり	20代・30代の人口増加数 (転入超過数)	498人	500人	547人	1,518人	1,320人	910人			1,000人	○
2良好な教育環境の整備	全国学力・学習状況調査で全国平均点を上回る科目数	75.0% 6/8科目	70.0% 7/10科目	50.0% 4/8科目	75.0% 6/8科目	50.0% 5/10科目	80.0% 4/5科目	-		100.0%	△
3子育てと仕事の両立のための環境をつくる	保育所待機児童数 (次年度4月1日時点)	156人	291人	547人	571人	412人	365人			0人	△
4社会全体で子どもを育む	①子どもの貧困対策 ②学習期における放課後対策の充実	49.4%	-	-	-	-	70.7%			55.0%	◎
	②子育てネットワークの拡大										
基本目標2 新たな人の流れをつくる											
1働きやすい環境をつくる	KPI ①若年層の就労支援 ②女性の活躍推進	2014年(参考値) 125,000人 ※2	2015年 127,000人 ※3	2016年 -	2017年 -	2018年 -	2019年 -	2020年 -	2021年 -	2021年(目標値) 137,000人	達成度 -
2住みやすい環境を整備する	①交通ネットワークの整備 ②市域の均衡ある発展 ③生活基盤整備 ④自然環境の保全、良好な景観形成の推進	70.2%	-	-	-	-	78.5%			75.0%	◎
3石石への関心を高め、定住を促す	①シテイスールスの推進 ②定住促進につながる環境の整備	498人	500人	547人	1,518人	1,320人	910人			1,000人	○
基本目標3 まちの賑いを高める											
1明石の活力をみんなが高める	①豊かな文化のある暮らし ②賑いの創出と交流の促進	2014年(参考値) 489万人	2015年 505万人	2016年 501万人	2017年 559万人	2018年 549万人	2019年 591万人	2020年 -	2021年 -	2021年(目標値) 540万人	達成度 ◎
2地域産業の振興	①産官学の連携による商工業の振興 ②「明石の食」をいかした取り組み	0種類	32種類	32種類	32種類	32種類	32種類			20種類	◎
3地域コミュニティの活性化	①小学校区単位の協働のまちづくり ②まちづくりの担い手育成とネットワーク化	未実施	(平成28年度から実施)	3校区	10校区	11校区	14校区			10校区	◎
基本目標4 安全・安心な暮らしを実現する											
1防災・減災の推進	①地域防災力・災害対応力の向上 ②日常の安全・安心の確保	2014年(参考値) 88.1%	2015年 88.7%	2016年 89.2%	2017年 89.8%	2018年 90.3%	2019年 90.8%	2020年 -	2021年 -	2021年(目標値) 91.0%	達成度 ◎
2みんなが安心して暮らせる社会をつくる	①健康な心と身体を育む環境の整備 ②高齢者の安心な暮らしを支える ③障害者の生活支援 ④認め合う開かれた地域をつくる	5,002人	6,683人	8,140人	9,600人	10,333人	12,321人			10,000人	◎
3持続可能な推進体制の整備	①公共サービス体制の充実	203億円	202億円	200億円	199億円	196億円	196億円			189億円	△

※1. まちづくり市民意識調査 ※2. 平成22年国勢調査結果 ※3. 平成27年国勢調査結果 ※4. 中核市移行の人員費は別途取扱

1 市民意識調査

(1) 調査概要

①対 象	18歳以上の市民5,000人（住民基本台帳からの無作為抽出） ※内2,000人は過去5年以内の転入者を抽出
②方 法	郵送調査
③期 間	発送・回収：2019年6～7月
④回収結果	回答者数3,265人（回収率65.3%） ①全市民対象（3,000人） 2,097人（回収率：69.9%） ②5年以内の転入者対象（2,000人） 1,168人（回収率58.4%）
⑤備 考	前回の調査：2014年度（2015年2～3月）・回収率52.8%

【年齢構成】

年代	全市民対象 (3,000人)		5年以内の転入者対象 (2,000人)		住基上の 年齢構成
10代（18歳以上）	36	1.7%	5	0.4%	2.3%
20代	142	6.8%	288	24.7%	12.2%
30代	228	10.9%	475	40.7%	14.8%
40代	375	17.9%	180	15.4%	18.1%
50代	374	17.8%	92	7.9%	15.2%
60代	377	18.0%	54	4.6%	14.2%
70代	390	18.6%	45	3.8%	14.4%
80代以上	114	5.4%	9	0.8%	8.8%
無回答	61	2.9%	20	1.7%	—
合計	2,097	100%	1,168	100%	100%

(2) 調査結果

① 明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略で数値目標に設定しているもの (全市民対象(3,000人)の結果)

- ・数値目標をすべて達成しており、とくに「明石のまちに愛着を感じる人の割合」「住みやすいと思う人の割合」は90%以上となっています。「住みたい、住み続けたい」と思われる「選ばれるまち」の実現に向けた取組の効果が表れているものと考えられます。
- ・子育て環境が良いと思う人の割合が前回よりも20ポイント以上も上昇しており、その他の項目においても、10ポイント程度上昇しています。

項目	2009年度	2012年度	2014年度	2019年度	目標値 (2020)
明石のまちに愛着を感じる人の割合	80.8%	80.1%	80.6%	90.8%↑	85.0%
住みやすいと思う人の割合	83.2%	83.7%	83.0%	91.2%↑	88.0%
住み続けたいと思う人の割合	66.2%	72.0%	70.5%	81.7%↑	75.0%
子育て環境が良いと思う人の割合	—	—	49.5%	70.7%↑	55.0%
緑や海、公園など自然が豊かであると思う人の割合	—	—	70.2%	78.5%↑	75.0%

② 各分野の施策

◆良くなった分野

- ・「こどもを核としたまちづくり」の推進により、「子育て環境の充実」が高く評価されているものと考えられます。
- ・総合戦略に掲げる新たなまちの魅力として「本のある文化のまちづくり」の取組が評価されているものと考えられます。
- ・明石駅前の開発などにより、良好な都市環境の整備が高く評価されているものと考えられます。

順位	全市民対象 (3,000人)	5年以内の転入者対象 (2,000人)
1位	子育て環境の充実 (59.9%) [前回1位: 26.8%]	子育て環境の充実 (72.1%)
2位	本のまちの推進 (18.8%) [前回一位: —%]	本のまちの推進 (20.2%)
3位	良好な都市環境の整備 (14.1%) [前回8位: 10.3%]	良好な都市環境の整備 (17.6%)
4位	交通体系の構築 (13.2%) [前回4位: 14.9%]	交通体系の構築 (12.4%)
5位	地域福祉の推進 (12.5%) [前回3位: 16.3%]	観光の振興 (11.6%)

◆今後推進すべき分野

- ・全市民対象と5年以内の転入者対象の結果を比較すると2位～4位については、概ね同様の結果となりましたが、1位と5位については年齢構成の割合が反映された結果となっているものと考えられます。

順位	全市民対象 (3,000人)	5年以内の転入者対象 (2,000人)
1位	高齢者支援の充実 (35.8%) [前回1位: 37.0%]	子育て環境の充実 (27.0%)
2位	交通体系の構築 (22.7%) [前回4位: 15.5%]	交通体系の構築 (25.4%)
3位	地域医療の充実 (18.5%) [前回3位: 16.9%]	地域医療の充実 (18.0%)
4位	防災・生活安全対策の推進 (17.0%) [前回6位: 12.8%]	防災・生活安全対策の推進 (17.9%)
5位	就労・勤労者の支援 (16.0%) [前回5位: 15.0%]	学校教育の充実 (17.5%)

2 タウンミーティング

(1) 開催概要

開催日時	地 区	参加者	テーマ
2019年 6/30(日)14時～	魚 住	73名	①(仮称)17号池公園の整備 ②T a c oバスの利便性向上
2019年 7/28(日)14時～	大久保	60名	①J T跡地の開発 ②人口増加に伴う交通渋滞緩和策及び安全対策
2019年 8/31(土)14時～	二 見	56名	①二見地区の公共施設のあり方及び民間施設の活用
2019年 9/28(土)14時～	西明石	51名	①鉄道駅等の安全対策 ②公共施設のあり方(西明石地区)
2019年 10/27(日)14時～	明 石	27名	①オール明石で取り組む今後のイベント ②明石駅周辺施設の利便性向上
各地区共通テーマ:今後のまちづくりの方向性「SDGs未来安心都市・明石の創造」			

<市出席者> 泉市長、両副市長、政策局長

<参加者の属性(5地区計 267名)>

地 区	性別		年齢				
	男	女	0～19歳	20～39歳	40～64歳	65歳～	不明
魚 住	42名 (58%)	31名 (42%)	0名 (0%)	0名 (0%)	13名 (18%)	41名 (56%)	19名 (26%)
大久保	42名 (70%)	18名 (30%)	2名 (3%)	6名 (10%)	13名 (22%)	35名 (58%)	4名 (7%)
二 見	34名 (61%)	22名 (39%)	0名 (0%)	2名 (4%)	12名 (21%)	39名 (70%)	3名 (5%)
西明石	30名 (59%)	21名 (41%)	1名 (2%)	6名 (12%)	9名 (18%)	34名 (66%)	1名 (2%)
明 石	20名 (74%)	7名 (26%)	1名 (4%)	3名 (11%)	6名 (22%)	17名 (63%)	0名 (0%)
合計	168名 (63%)	99名 (37%)	4名 (1%)	17名 (6%)	53名 (20%)	166名 (63%)	27名 (10%)

(2) 主な意見 (SDGs の項目で分類)



【3 すべての人に健康と福祉を】

《高齢者》

- ・高齢者が元気に活動出来るように、サンライフ明石を存続させてほしい。(西明石地区)
- ・介護保険の認定については、本人の様子、かかりつけ医、介護職員の意見を重視する様に見直してほしい。(大久保地区)
- ・高齢者の検診に骨密度を加えてほしい。(魚住地区)
- ・ふれあいの里は、2年ほど前に廃止の方向性が打ち出されているが、存続させてほしい。(魚住地区)
- ・昨年度から70歳以上のがん検診は受診券の申請が必要となった。また、今年度からは胸部検診が、個別検診ではなく集団検診のみになり不便。以前の制度に戻してほしい。(全地区)

《こども》

- ・中学校給食無償化は素晴らしい。小学校給食の無償化も早期に実現してほしい。(明石地区)
- ・放課後児童クラブの定員や指導員制度が変更されるなど、課題が多く学童保育の今後が心配。(明石地区)
- ・保育所の整備に併せて、保育の質もしっかりと確保してほしい。(明石地区)
- ・こどもの発達・成長には公立保育所を増やすことが大事であると思う。市の待機児童解消のあり方を見直してほしい。(西明石地区)
- ・こども食堂は、こどもや保護者の地域交流拠点機能や、色々な問題を早期に発見し、こどもセンターに繋ぐ機能等を担っている。(魚住地区)
- ・人口増加に伴い働きたくても働けないお母さんがたくさんいるため、保育所を整備してほしい。(魚住地区)

《その他》

- ・地域総合支援センターの間口を広げ、社会的弱者の支援を強化してほしい。(明石地区)
- ・厚生労働省が公立病院を廃止すると発表したのが、市民病院の廃止をどう考えるか。(西明石地区)
- ・ペットが飼えない方でも動物と触れ合う機会を作るために、あかし動物センターに持ち込まれたペットを収容した「ペットカフェ」を各地域に設置し、癒しの場や、外出機会の創出をしてはどうか。(大久保地区)
- ・大久保駅の喫煙所について、風向きによってはタバコの煙が漂ってくるので、設置場所を考えてほしい。(大久保地区)



【4 質の高い教育をみんなに】

- ・今夏、鳥羽小学校の体育館でのイベントで、ボランティアとして参加していた中学生が熱中症で倒れた。体育館の空調を早急に整備してほしい。(西明石地区)
- ・子育て支援策に力をいれているが、大学生への支援策も検討してほしい。(西明石地区)
- ・大久保地域は人口が増加しており、大久保小学校や大久保南小学校は空きがほとんどない。校庭も狭いので、休み時間に走れるスペースがない。この状況が数年続くと教育の地域間格差が出るのではないかと心配。(大久保地区)

- ・こどもが多いのに図書館がないため図書館を中心とした施設を作ってほしい。(大久保地区)
- ・伝統文化の継承のために、小学校で地元の方々による講習会が実施できないか。(大久保地区)
- ・学校運営協議会がスタートしているが、小学校運営における地域の参画について、広報などでもっとアピールしてほしい。(魚住地区)
- ・西部図書館の図書が更新が、あかし市民図書館に比べて少ない。(魚住地区)
- ・錦が丘中央公園に埋設保存されている寺山古墳を可視化してほしい。(魚住地区)



【6 安全な水とトイレを世界中に】

- ・コンセッション方式について明石の水道事業はどうするのか。(西明石地区)
- ・明石の水は評判が良いが、老朽管についてどう対応していくのか。(魚住地区)



【7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに】

- ・公共施設を建設するときは、省エネルギー、再生エネルギーをコンセプトに進めてほしい。(大久保・二見地区)
- ・再生可能エネルギーを地産地消することで、地域経済の発展や停電時の早期復旧が見込めることから、明石市でもエネルギーの地産地消を検討してはどうか。(明石地区)
- ・香川県三豊市では、燃えるゴミを燃やさず固形燃料に変えるトンネルコンポスト方式でゴミを処理している。明石市でも検討してほしい。(大久保地区)
- ・保育所など新しい建物の屋根に太陽光パネルが設置されていないのはもったいない。再生可能エネルギーの設備を導入したら、助成金が交付されるような仕組みを定められないか。(二見地区)
- ・再生可能エネルギーにより発電した電気で災害対応できる仕組みを考えてほしい。(二見地区)



【8 働きがいも経済成長も】

- ・人口増加に伴い、働きたくても働けないお母さんがたくさんいる。もっと保育所を整備してほしい。(西明石・魚住地区)
- ・消防団活動の参加者が少なくなっているので、70歳未満の元気な高齢者も加入出来るようにして、地域貢献に繋げてはどうか。(大久保地区)
- ・農地は食を生産する重要な場所であり、こども達に受け継ぐ資産であるが、農業の担い手不足により、遊休農地が多く発生している。農業者の声が届く仕組みづくりを検討するとともに、農業関連事業に予算をつけてほしい。(魚住地区)



【10 人や国の不平等をなくそう】

- ・市が進めている「やさしいまちづくり」「誰も取り残さないまちづくり」は、実績も伴って、前向きに進んでいると思う。(明石地区)
- ・障害者への合理的配慮やインクルーシブ教育が教育現場では対応されていない。教師に浸透することを期待したい。(大久保地区)
- ・市内に住む外国人と地域の親和性を高めるために、外国人の国籍や居住地、人口などの情報を行政側から提供してほしい。(二見地区)



【11 住み続けられるまちづくりを】

《まちづくり》

- ・明石駅周辺は急速に賑わい、11月にはB-1が開催される。これからも賑わいをさらに高めるために、商店や飲食店でのおもてなしの向上に取り組んでほしい。(明石地区)
- ・JR西明石駅南側のまちづくりの進捗状況と今後についてどうするのか。(西明石地区)
- ・山陽西二見駅北側を開発して人口の受皿とすれば、商業施設も活性化する。(二見地区)

《Tacoバス》

- ・ルートを見直して欲しい(全地区)
- ・1時間に1便では利用しづらい。せめて1時間に2便はほしい。(明石・大久保・魚住・二見地区)
- ・たこバスの明石東部への導入計画の検討状況はどうなっているのか。(西明石地区)
- ・無償化は有難いが、無償化だけではなく、利便性を高めてほしい。(魚住地区)
- ・高齢者のたこバス運賃無償化施策を廃止して、その財源で増便してほしい。(魚住地区)
- ・金ヶ崎ルートの積み残しを解消してほしい。(魚住地区)

【挙手制によるご意見(魚住地区)】

- *運賃無償化の対象者の拡大は行わず、増便やルートを拡大するほうが良い(10割程度)
- *運賃無償化をやめてでも増便するほうが良い。(5割程度)
- *運賃無償化の対象は現状のまま、可能な範囲で利便性の向上を図るほうが良い。(5割程度)

【挙手制によるご意見(二見地区)】

- *たこバスの充実化は、増便を優先してほしい。(8割程度)
- *運賃無償化をやめてでも増便やルート拡充を行うほうが良い。(9割程度)
- *寿タクシー券の増額継続をやめてでもたこバスの充実化をするほうが良い。(9割程度)

《鉄道駅・踏切等対策》

- ・JR明石駅東側の高架下が暗くて汚いため、改善策をお願いしたい。(明石地区)
- ・山陽電鉄とも包括連携協定を締結すれば、山陽電鉄の駅ももっと改善できると思う。(明石地区)
- ・西明石駅に九州新幹線のさくら号が停車するようにJRと交渉してほしい。(西明石地区)
- ・JR西明石駅東側改札をバリアフリー化してほしい。(西明石地区)
- ・山電藤江駅南側に改札を整備してほしい。(西明石地区)
- ・南畑踏切の今後の進め方について、地元へ詳細な説明をしてほしい。(西明石地区)
- ・南畑踏切の北側は通学路なので安全対策をお願いしたい。(西明石地区)
- ・JR大久保駅のホームの拡幅と、雨対策として屋根を設置してほしい。(大久保地区)
- ・板額踏切に歩道と賢い踏切を整備してほしい。(大久保地区)
- ・山電中八木駅のバリアフリー化や周辺道路の整備を進めてほしい。(大久保地区)
- ・JR魚住駅西側の踏切(山の神第2踏切)を拡幅してほしい。(魚住地区)
- ・山電山陽魚住駅のホームは、上りも下りも階段であり困っている利用者がある。しっかりバリアフリー対応してほしい。(魚住地区)
- ・山電山陽魚住駅北側に改札を設置するように、市から山陽電鉄に要望してほしい。(二見地区)
- ・東二見農協前の踏切を拡幅し、遮断時間を短縮してほしい。(二見地区)

《道路等の整備》

- ・道路幅員が狭く危険な箇所があるため、通学路の安全対策をしっかりとしてほしい。(西明石・大久保・魚住・二見)
- ・子育て関連施策の予算を捻出するため、下水道予算の削減を実施しているが、最近の驚異的な大雨に対応出来るのか。(明石地区)
- ・国道2号線の渋滞緩和に最も効果的な江井ヶ島松陰新田線の整備が進んでいることは評価する。(大久保地区)
- ・山手環状線大窪工区のうち、大久保病院までの道路を早急に拡幅してほしい。(大久保地区)
- ・国道2号線の渋滞緩和のため、山手環状線と江井ヶ島松陰新田線の整備を同時に着手してほしい。(大久保地区)
- ・西脇皿池横の里道の拡幅工事が進んでいないので進めてほしい。(大久保地区)

《公園整備》

- ・市内にバスケットボールをして遊べる公園がないため、大蔵海岸などにフルコートのバスケットコートを整備してほしい。(明石地区)
- ・藤江の焼野(卸売市場の西側)にある新池を活用して公園の整備を検討してほしい。(西明石地区)
- ・子どもから高齢者まで憩えるような緑の多い公園を作してほしい。図書館や障害者施設が併設されるのも良い。(大久保地区)
- ・魚住清掃工場跡地に、子どもから高齢者まで集えて遊べる広場がほしい。(魚住地区)
- ・野々池緑地部分に、野球、サッカー、グラウンド・ゴルフなどができる多目的広場を整備してほしい。(二見地区)
- ・鴻池親水公園と瀬戸川親水空間の整備を実現してほしい。(二見地区)

《(仮称)17号池公園》

- ・校区には公園がないので大変嬉しい。子どもも高齢者も利用できる「憩いの場」と「スポーツ公園」を合わせた場所になったら良いと思う。(魚住地区)
- ・野球・サッカーだけでなく、グラウンド・ゴルフができるようにしてほしい。(魚住地区)
- ・公園への出入に当たり、国道2号線は車両が多く、右折や左折が難しいため、スムーズに出入できるように考えてほしい。(魚住地区)

【挙手制によるご意見(魚住地区)】

*野球専用ではなく、野球も出来る多目的な芝生広場が良い。(9割程度)

《JT跡地》

- ・JT跡地の周辺道路について、住民が要望している交差点の改良や信号機の設置、道路の拡幅、板額踏切の拡幅などは、地元の意見を入れて計画的に取り組んでほしい。(大久保地区)
- ・民間開発用地の西側と北側の民有地取得に向けて積極的に取り組んでほしい。(大久保地区)
- ・地域住民が集える芝生広場やイベントができる舞台、ランニングコースが整備されれば、住民同士が交流できる。(大久保地区)
- ・利活用について、計画の作成段階から住民参画で進めてほしい。(大久保地区)

【挙手制によるご意見(大久保地区)】

*図書館の整備を検討しても良い。(8割程度)

*子育て支援施設の整備を検討しても良い。(8割程度)

- *生涯学習拠点の整備を検討しても良い。(7割程度)
- *グラウンド整備を検討しても良い。(5割弱程度)
- *市役所の整備を優先した方が良い。(4割程度) 優先しなくてもいい。(4割程度)

《庁舎・公共施設》

- ・西明石地区に市民センターを設置してほしい。(西明石地区)
- ・市役所の移転は大反対。現在の市庁舎を補強して使用すれば良い。今後、少子高齢化対策でお金がかかるので節約すべき。(大久保地区)
- ・国の財政支援メニューである市町村役場機能緊急保全事業の適用を受けるためには、2020年度までに実施設計に着手することが要件となっており、候補地決定は急ぐべき。(大久保地区)
- ・人と人を繋ぐ機能を持つスペースがないので、情報発信拠点や交流拠点が必要だと思う。公共施設の空きスペースや既存施設を活用すれば、コストをかけずに整備できる。(大久保地区)
- ・二見西小学校東隣の今池を埋め立てて、市民センターや西部文化会館の機能を持った複合施設(図書館、市民の憩いの場、こども・高齢者向け施設、温泉施設、避難所機能を併設)や、野球やサッカーができる運動施設の整備を検討してほしい。(二見地区)
- ・旧イオンタウン跡地の一部に公共施設を導入し、こどもから高齢者まで気楽に立ち寄れる憩いの場を整備してほしい。(二見地区)
- ・「市民活動支援センター」の西部拠点を整備してほしい。(二見地区)
- ・本庁舎の移転先は、地震発生時においても指揮命令機能が果たせる場所が良い。(二見地区)

【挙手制によるご意見 (二見地区)】

- *二見市民センターを含めた複合施設を整備しても良い。(8割程度)
- *二見市民センターは西部文化会館周辺に移転整備してほしい。(8割程度)

12 つくる責任
つかう責任



【12 つくる責任つかう責任】

- ・プラスチックゴミ問題やゴミの減量の市民啓発について、しっかり取り組んでほしい。(魚住地区)
- ・粗大ゴミの収集について、年1回でも構わないので復活してほしい。(魚住地区)

13 気候変動に
具体的な対策を



【13 気候変動に具体的な対策を】

- ・地球温暖化対策として、化石燃料から再生可能エネルギーの転換を進めてもらいたい。(明石地区)
- ・地球温暖化問題について、市長の基本的な考え方、想いはどうなのか。(西明石地区)
- ・再生可能エネルギーなど環境に配慮したエネルギー施策を進めるためにも、地域エネルギーを専門的に取り扱う部署を創設し、地球温暖化への対策を研究してはどうか。(西明石地区)

14 海の豊かさ
を守ろう



【14 海の豊かさを守ろう】

- ・林崎松江海岸は海水浴シーズンになるとゴミが散乱しており、環境が悪化している。(西明石地区)
- ・せっかく海があるので、汚れた海藻を除去したり、駐車場アクセスを改善して、こどもも大人も気軽に行けて楽しめる環境にしてほしい。(二見地区)
- ・漁業活性化のため、市の組織を充実してほしい。(二見地区)



【16 平和と公正をすべての人に】

- ・厚生労働省と連携しながら地域共生社会を進めることを期待している。(二見地区)



【17 パートナーシップで目標を達成しよう】

- ・ユニバーサル歯科診療所や（仮称）あかし観光案内所などの取組で「明石市はやさしいまち」という認識が広まれば、市民同士がより支え合える関係性が築けると思う。(明石地区)
- ・年に一度は、市長と住民との意見交換の機会を持ってほしい。(西明石地区)
- ・明石市がSDGsを推進していることはとても良いことだと思う。(大久保地区)
- ・行政から発信する施策を市民に浸透させるために、行政・福祉施設・当事者・地域団体・一般住民までが相互理解できるシステムの構築が必要である。(大久保地区)
- ・学校園庭を開放してこどもの居場所づくりをしてほしい。(大久保地区)
- ・PTAは学校と家庭を繋ぐ大切な役割を担っているが、共働きの子育て世帯が増え、PTAが面倒という風潮が広がっており、今後の運営に不安を感じている。(二見地区)
- ・SDGsの推進には民間企業との連携が必要である。(二見地区)

3 子育てモニターとの市長懇談会

(1) 開催概要

①開催日時	2019年8月3日(土) 〈第1部〉午後1時30分～午後2時30分 〈第2部〉午後3時～午後4時
②開催場所	パピオスあかし6階 こども健康センター健診室
③出席者	子育てモニター(子育て中の保護者や妊娠中の方) 〈第1部〉 20名 〈第2部〉 24名

〈市出席者〉 泉市長

(2) 主な意見

〈保育所・幼稚園〉

- ・無償化施策により、多くの方が転入してきているが、待機児童が発生しており、保育所の整備を進めてほしい。
- ・3歳児を担当する保育士の配置が少ない。必要に応じた対応を市独自で取り入れてほしい。
- ・保育所の入所について、利用者目線での入所基準にしてほしい。また、出産後の体調が戻る時期だけでも上の子どもを預けられるようにしてほしい。
- ・幼稚園の3歳児保育について、希望者全員が受けられるようにしてほしい。
- ・幼稚園給食について、週に何日かだけでも、併設の小学校で作っている給食を提供できないか。

〈子育てサポート・産前産後ケア〉

- ・緊急で、自分も子どもも体調が悪い時に、誰かに助けてもらえるようなサポートがほしい。
- ・ファミリーサポートについて、会員数が少なく、書類や事前の打ち合わせなど、利用のハードルが高いと感じる。
- ・産前産後のケアを充実してほしい。ヘルパーの派遣により、2時間だけでも休めるのは、心身とも疲れているときに助かっている。
- ・子育てにおいて、親が不安やストレスを抱いていると子どもに影響を与えるので、親のケアも考えてほしい。

〈障害児支援〉

- ・学校の普通学級にも支援が必要な子どもが多くいるので、介助員を充実してほしい。
- ・療育機関を選ぶ上での情報提供や各機関の取組の底上げをしてほしい。

〈情報発信・交流の場〉

- ・子育てイベントの周知をもっとしてほしい。また、平日の午前イベントが多いので、午後から行けるものや土日にやってほしい。
- ・ママ友を作りやすい場をもっと広げてほしい。
- ・タウンミーティングに参加した際、子育て世帯のことを考えてくれる高齢者の方が多かったので、地域の方と交流できる場所があったら良いと思う。

4 高齢者大学での市長懇談会

(1) 開催概要

開催日	開催日時	コミセン	参加者
2019年 11月19日(火)	10時～11時	野々池コミセン	62名
2020年 1月15日(水)	10時～11時	大久保北コミセン	85名
	13時30分 ～14時30分	魚住東コミセン	61名
2020年 2月5日(水)	13時30分 ～14時30分	朝霧コミセン	67名
2020年 2月7日(金)	10時～11時	江井島コミセン	58名

＜市出席者＞ 泉市長

(2) 主な意見

①まちづくり全体について

- ・明石は子育てしやすいまちになってきたと思う。
- ・インクルーシブなまちの実現に向けて、子育て層のみならず高齢者支援に幅広く取り組んでいただき感謝している。
- ・少子化問題だけでなく、高齢者施策も更に充実してほしい。
- ・各施策を小学校区ごとに進めているが、地域もすべて同じ環境ではないので、必要に応じてという姿勢も大事である。
- ・災害対策をしっかりとやって、防災に強いまちにしてほしい。
- ・やさしいまちも良いが、美しいまちにもしてほしい。

②各施策について

＜高齢者施策＞

- ・老々介護が不安である。
- ・介護施設への入所待ちをなくしてほしい。
- ・高齢者の一人暮らし、二人暮らしが増え、閉じこもる人が多くなっているため、外出を促す取組や、健診・医療相談は各地域に出向くようにしてほしい。
- ・地域に人が集まるスペースや施設があれば、閉じこもりがなくなると思う。
- ・高齢者の運動促進のため、公園利用料の高齢者割引を検討してほしい。

＜公共交通等＞

- ・たこバスの便数を増やしてほしい。高齢者のたこバス無料化より、多くのルートをまわってほしい。
- ・高齢者のたこバス無料化は非常に助かっている。無料ということが、気持ちの面でも大きな効果がある。
- ・墓園行きのバスを平日も運行してほしい。
- ・運転免許返納についてもっと色々な案を打ち出してほしい。

<その他>

- ・西明石駅周辺の整備（南北通路など）を進めてほしい。
- ・J T跡地を有効に活用してほしい。
- ・17号池公園の整備により、高齢者の健康増進や、魚住の活性化を図ってほしい。
- ・子どもや高齢者が行ける小さな公園、図書館を整備してほしい。
- ・子育て世代が増えたことによって生じた学校の過大校の問題や小児科の不足などにも対応してほしい。
- ・空き家対策に取り組んでほしい。

5 第1回あかしSDGs推進審議会での意見

(1) 開催概要

①開催日時	2020年2月3日(月) 10:00~12:00
②開催場所	明石市役所 議会棟2階 大会議室
③出席者	あかしSDGs推進審議会委員(当日20名の出席) 泉市長、副市長、政策局長、政策室職員
④議事内容	<ul style="list-style-type: none">・本市の状況(好循環)・「(仮称)あかしSDGs推進計画(第6次長期総合計画)」の策定(概要)・第5次長期総合計画の検証・「(仮称)あかしSDGs推進計画(第6次長期総合計画)」の考え方

(2) 主な意見

<本市の状況、第5次長期総合計画の検証>

- ・10年程前までは、障害があることを隠す必要があったが、配慮施策が取り入れられ、障害者であることを声に出せる明石になってきた。インクルーシブ条例の検討が進むと、本当に安心して生活や社会参加できると思う。
- ・現在、本当に好循環だと思う。近くでも家がたくさん建って子供たちの声がたくさん聞こえるようになっている。
- ・子育て世代が多く入ってきていることは良いことだと思う。また、明石駅は最近とてもぎやかになってきたが、他の所はちょっと寂しいと思う。

<(仮称)あかしSDGs推進計画(第6次長期総合計画)>

- ・市民の皆さんは、SDGsという抽象的な概念が、具体的にどういうことなのかも分からないのではないかと。インクルーシブなどの直感的に理解しにくい言葉も含めて、分かりやすい言葉に置き換えて伝える必要がある。
- ・まちでSDGsのバッジを見かけることもあり、また、電車等でもSDGsのアイコンを目にする機会が増えている。明石市でも市民にしっかりと知ってもらう必要があるのではないかと。
- ・持続可能という同じテーマを掲げている東京オリンピック・パラリンピックが開催される年であり、このタイミングをうまく利用して明石市として実現することを具体的に示す一番いい時期であると考えます。
- ・地球温暖化や気候変動が進んでいる中で、環境面の取組が少し弱いのではないかと。また、気候の変化に伴う災害への防災も重要であり、市民の意識も高まっている。
- ・環境の上で社会が成り立っており、環境をベースにした構造の方が良いと感じる。SDGsの3側面には色々な見せ方があるので、工夫してほしい。

6 あかしSDGs推進審議会委員への書面での意見聴取

(1) 開催概要

①実施時期	【第1回】 2020年9月29日(火)～10月16日(金) 【第2回】 2020年11月2日(月)～11月18日(水)
②聴取内容	【第1回】 ・(仮称)あかしSDGs推進計画(骨子案) 【第2回】 ・(仮称)あかしSDGs推進計画(骨子案) ・(仮称)あかしSDGs前期戦略計画(構成案) など

(2) 主な意見

① (仮称)あかしSDGs推進計画骨子案

<2030年のあるべき姿(目指す10年後のまちの姿)について>

- ・象徴的な目標として、「住みやすいと思う人の割合100%」を掲げたことは、大変明確であり、意味がある。
- ・象徴的な目標として「住みやすいと思う人の割合100%」を掲げているが、努力目標として掲げているのであれば問題ないが、2030年に数値を評価するのであれば、達成可能な目標が望ましい。
- ・「住みやすいと思う人の割合」と合わせて、「住み続けたいと思う人の割合」についても目標にしてはどうか。
- ・「持続可能」が前提条件のように書かれていることに違和感がある。「SDGs未来安心都市・明石」に不可欠なのは、市民の「持続可能」に対する理解を深めることではないか。

<まちづくりの方向性>

- ・SDGsの目標はすべて、環境面、社会面、経済面と深くつながっており、この三側面をどのように工夫していくのが大切である。具体的な施策の実施に当たっても、三側面が独立することなく、バランスを保てるように検討すべきである。
- ・三側面のまちづくりの方向性に市民の位置付けをはっきりすべきである。
- ・防災に対する取り組みも進めてほしい。(環境)
- ・明石の環境面の現状に「14 海の豊かさを守ろう」「15 陸の豊かさを守ろう」の両方に配慮した表現とすることが、「人にも自然にも地球にもやさしいまち」につながる。(環境)
- ・「健康」や「教育」といった具体的な用語を絡めた目標も必要ではないか。(社会)
- ・「こどもを核としたまちづくり」に力を入れたまちづくりを推進しているのは分かるが、高齢者や障害のある人への手立て・取組も必要ではないか。(社会)
- ・近所ではあいさつをしても返してこない人が多い。「すべての人が助け合い」をどのように達成するのか、具体的な取組を考えていきたい。(社会)
- ・新型コロナ後の社会の中で、地域密着型のライフスタイルの創造、デジタルインフラについても記載してはどうか。(経済)
- ・「定住人口」と「交流人口」の拡大についても記載してはどうか。(経済)

<その他>

- ・SDGsは人材の育成が最も大事だと思う。
- ・「いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで」の考え方を、ハード・ソフト両面でつり合いの取れた取組を実施することが大切である。
- ・他県に住むことになろうとも、最後は“帰ってきたい”と思えるまちにしていくべきである。
- ・明石の海が今どういった現状で、今後どうしていきたいのか、市民にあまり浸透していないように思う。
- ・子ども世代に比べ、高校から大学生への支援が少ないように感じる。
- ・障害者に対する合理的配慮の趣旨やノーマライゼーションの考え方をもっと普及・啓発してほしい。
- ・市全体のまちづくりと校区のまちづくりを共に発展させていくことが大切である。
- ・個人の衣食住の質・デザイン性が向上しているなか、美しい街並みの実現が必要ではないか。
- ・明石市に安心して住むということは、雇用に安心できることである。安定な雇用だけでなく、柔軟な働き方や意義のある仕事を見つけられることが大事である。
- ・子ども達が成長して、転出しないように地場産業の育成が必要である。

②（仮称）あかしSDGs前期戦略計画構成案

- ・5つの施策を中心に進めていくことは良いと考える。5つ以上に柱を設定すると焦点がわかりにくくなる。
- ・5つの施策展開の柱が、「環境・社会・経済の三側面」に対して、どのように関わっているのかを示すとつながりと根拠が理解しやすい。
- ・三側面に施策や数値目標を位置付けたほうが、分かりやすいのではないか。
- ・数値化できない、できにくい目標について、どのように設定していくのか考える必要がある。
- ・前期戦略計画は、推進計画の方針を受けて、これを実現させるための方向性や重点的な取組をまとめたもので、個別計画とのつなぎになるものとする。個別計画を策定する関係部署との十分な意見交換が必要である。
- ・温室効果ガス排出量をゼロに近づけるための取組や数値目標を掲げていくべきである。
- ・SDGs未来都市に選定された市として、他市の手本となるようなものにすべきである。